AI Psychometrics Inc.

Theta AI™

コホートインサイトレポート

5択状況判断・Best+Worst 応答・コホート

サンプルコホート・合成参加者24名。本レポートはコホート結果の提示例です。参加者が50名未満のため、
集団の傾向は母集団のベンチマークではなく記述的エビデンスとしてご利用ください。

このグループの判断が強いところと揺らぐところ、
リスクの高い選択が集中する箇所、機能している項目、
そして面接で誰に何を聞くべきか。

SYNTHETIC-DEMO 向けに作成(顧客データではありません)

コホート SYNTH-N24-v3b(仮名)

24名・45ページ・v6.1
2026年10月8日 生成

キャリブレーション前・記述的 | key_version theta-key-2026-10-05 | 採点 bw-s1-v1 | 総合順位なし・判定なし | 欠損は欠損のまま保持

02 エグゼクティブサマリー
03 ビジュアルダッシュボード
04 比較エビデンス 1
05 比較エビデンス 2
07 比較エビデンス 3
09 比較エビデンス 4
11 比較エビデンス 5
13 比較エビデンス 6
14 比較エビデンス 7
15 比較エビデンス 8
17 比較エビデンス 9
18 リスク集中度
19 コンピテンシープロファイル
20 育成・オンボーディング
22 面接質問
24 面接官ガイド詳細
26 判断の全体像
27 選択分布 20×5
28 ディストラクター分析
29 項目の健全性・キー点検
32 項目識別力の詳細
34 曖昧性マップ
35 ギャップ・逆転
36 価値観の優先順位
37 意思決定スタイル
38 一貫性・タイプ安定性
39 応答の整合性
40 応答時間の詳細
41 名簿
42 方法・限界
43 コンピテンシー解釈
44 付録 R

レポートの真正性を確認
TH-ZNUN-8B3Y-P

© 2026 AI Psychometrics Inc.・ai-psychometrics.com

エグゼクティブサマリー ・ 意思決定ページ

リーダーのための1分で読める結論。すべての数値は本レポート後半のグラフまたは表から来ています。

一文で示す結論

24名中3名が両軸でカットラインを上回り、12名が境界域です。有害なベスト選択は CB-05-D、CB-06-D、CB-09-A に集中しています。面接はここから、オンボーディングは「人と協働」から始めてください。

3つの強み・グループが最もよく判断した状況

- 17 **CB-11-B** · 平均 5.4/8 · 模範行動 = ベスト 38%
- 16 **CB-10-A** · 平均 5.3/8 · 模範行動 = ベスト 29%
- 04 **CB-02-C** · 平均 5.2/8 · 模範行動 = ベスト 38%

確認すべき3点・有害なベスト選択の集中箇所

- 09 **CB-05-D** · 有害ベスト 13件(54%) · 平均 4.0/8
- 11 **CB-06-D** · 有害ベスト 12件(50%) · 平均 4.4/8
- 15 **CB-09-A** · 有害ベスト 12件(50%) · 平均 4.4/8

面接で聞くべき3つの質問

09 「CB-05-D のような状況で、まず何をしましたか。それはなぜですか?」 · 強い回答は「丁寧に断り、使用できないと伝え、必要であればコンプライアンスに報告する」方向です

11 「CB-06-D のような状況で、まず何をしましたか。それはなぜですか?」 · 強い回答は「1対1で馴染めているかを尋ね、バディなど参加の仕組みを作る」方向です

15 「CB-09-A のような状況で、まず何をしましたか。それはなぜですか?」 · 強い回答は「作業を止め、原因を確認し、対処して記録する」方向です

誰に聞くべきかと弱い回答のサインは「面接質問」ページにあります。

4つの主要な発見

- 最も安定しているのは「実行力(プレッシャー下)」、最も弱いのは「人と協働」です。
- 24名全員(100%)が少なくとも1回、有害な選択肢をベストとして選んでいます。大きなミスは CB-05-D、CB-06-D、CB-09-A に集中しています。
- 応答の38.1%が逆転しており、最高は CB-05-D の50%です。
- 応答速度と判断スコアの関連はほとんどありません(項目 r -0.40–0.39)。

エビデンスは十分か

- **24** 名 · 小規模層(20-49) · 識別力は参考のみ
- 折半法 **0.88** (90% 区間 0.78–0.94)
- 機能している項目 **20/20** (識別力 r ≥ 0.15 · 参考のみ)
- **12** キー点検項目 · 見直し候補
- 整合性シグナル: **1** 名 · 証明ではなく確認用
- 逆転の確認: 候補者4名 · ほとんどの項目でベストよりワーストのスコアが高い応答。確認マーカーのみであり、理由を示すものではありません。
- 判定対象外: 候補者0名 · 回答項目数がチェック条件に合わなかったか、回答値が欠損していたため、判断を行いませんでした。
- 記述的・キャリブレーション前(キー theta-key-2026-10-05 · キャリブレーション未実施)

今週やること

- 最初のオンボーディングテーマ: 「人と協働」のケースレビュー
- 面接質問を最初に投げる先: CB-05-D、CB-06-D
- 見直し候補: 曖昧または弱い項目 01、02、03、05、06、07、08、09、10、13、18、19

データの限界

- 24名の実応答 · キャリブレーション前の記述的データ
- 順位付け、カットオフ、総合スコアなし
- 人口統計データがないため、集団公平性分析なし
- 信頼性の数値はこのサンプルを記述するものであり、妥当性検証の結果ではありません

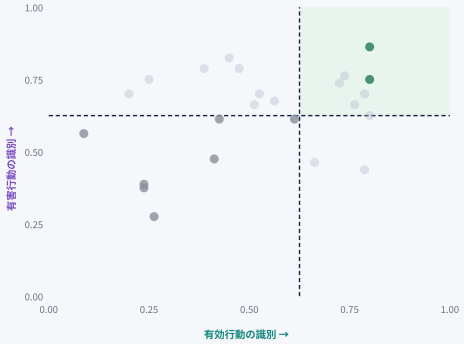
判断前に読むページ

- **p18** リスク集中度
- **p20** 育成 · オンボーディング計画
- **p22** 面接質問バンク
- **p24** 面接官ガイド詳細
- **p42** 方法 · 層 · 限界

ビジュアルダッシュボード ・ リーダー向けチャート

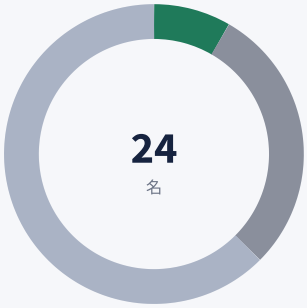
24名中、2名が両軸でカットラインを上回り、15名が境界域です。リスクは CB-05-D のシナリオに最も集中しています。

判断の全体像・24名



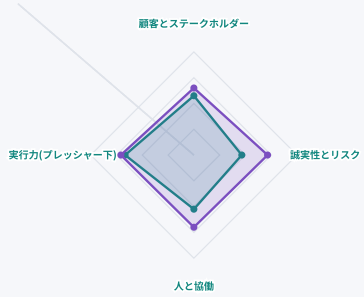
点の色 = タイプ・淡色 = 境界域(表示タイプの不確実性ルール)・緑の領域 = 両軸が 0.625 のカットライン以上。

タイプ構成



2 バランス型
0 有効行動に強み、リスク識別は育成対象
0 リスク識別に強み、有効行動は育成対象
7 両軸ともエビデンス不足
15 境界域

コンピテンシープロファイル・コホート中央値



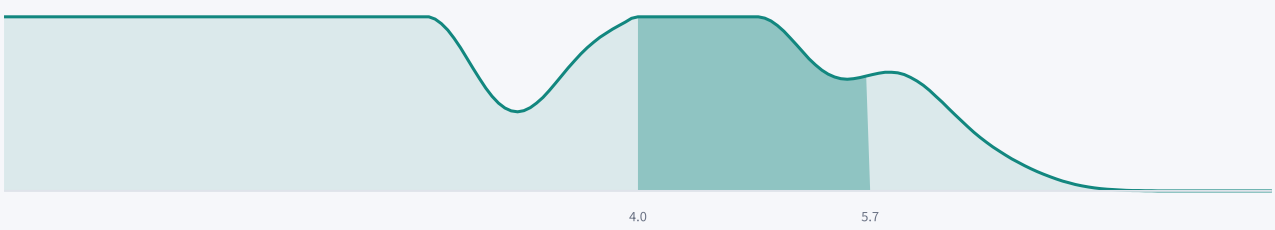
ティール = ベストクレジットの中央値、紫 = ワーストクレジットの中央値(0–4)・コンピテンシータグはサンプルのマッピングです。

全20状況・スコア・リスク・識別力

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
項目平均スコア	4.5	4.2	4.9	5.2	4.6	4.3	4.5	4.4	4.0	4.3	4.4	5.0	4.3	4.8	4.4	5.3	5.4	4.1	4.7	5.0
有害選択をベストとした %	38	46	42	33	46	42	42	46	54	46	50	33	42	38	50	29	33	46	29	33
識別力 r	0.70	0.44	0.71	0.42	0.35	0.45	0.70	0.38	0.42	0.46	0.61	0.37	0.36	0.45	0.58	0.59	0.46	0.26	0.50	0.55

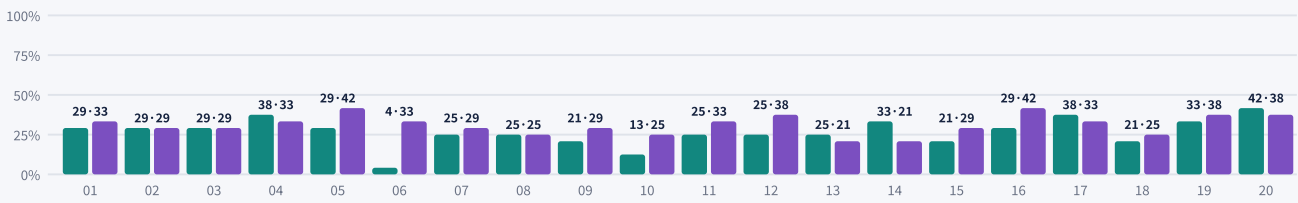
低識別力の項目なし(すべて r ≥ 0.15)。

項目平均スコアの分布



濃い部分 = 中央 50%。総合順位・合格ラインなし。(カーネル密度、h=0.35)

状況別のキーとの一致度



ティール = 模範行動をベストに選んだ割合・紫 = 最も有害な行動をワーストに選んだ割合。

相対比較エビデンス ・ 概要ダッシュボード

24名・480ペア・α 0.88。67%でタイプ安定性が80%以上。100%が少なくとも1回有害な選択肢を選択。

主要指標

メンバー数	応答ペア数	Cronbach α
24 名	480 項目 × メンバー	0.88 CI 0.79–0.92

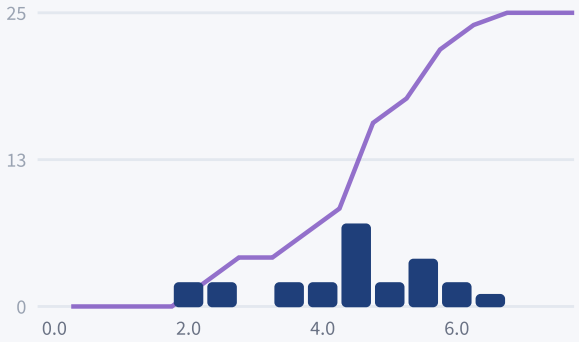
折半法	有害選択あり	タイプ安定性 ≥80%
0.88 CI 0.78–0.94	100.0% 24名	16 名・66.7%

タイプとスコアの分布

判断タイプ分布(N・割合)

バランス型	2・8.3%
エビデンス不足	7・29.2%
実行力の強み	0・0.0%
境界域	15・62.5%

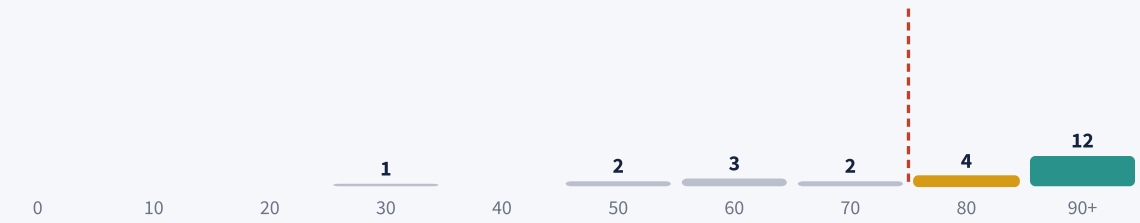
平均スコア分布・紫線 = 累積割合



中央値 4.9・平均 4.61・範囲 0-8

安定性バンド

タイプ安定性バンド(1,000回リサンプリング)・80% ライン



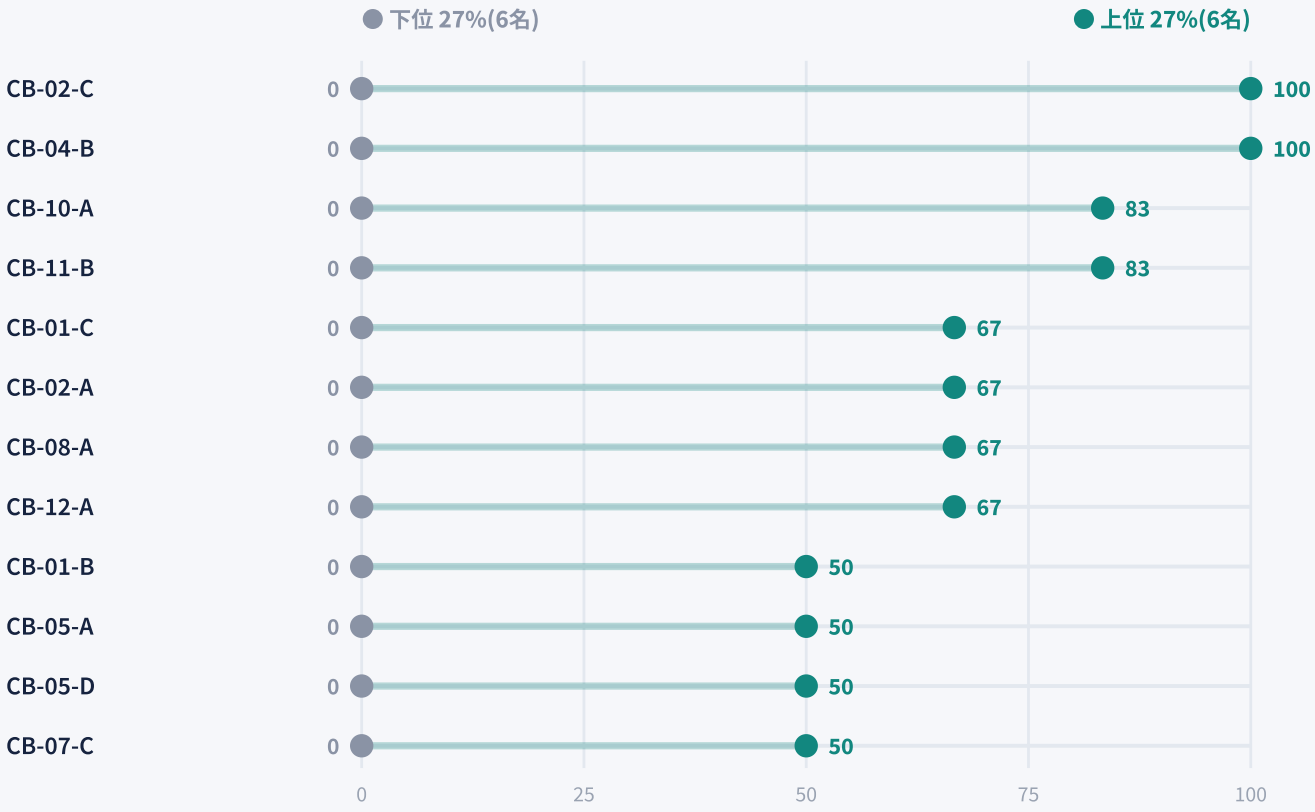
このダッシュボードの読み方

• このページは後続の8つの詳細セクション(難度、平均、有害選択と逆転、識別力、安定性、軸の交互変動、バンド、統合)を要約しています。すべての数値は 24 × 20 の応答レコードから直接計算されています。
• 数値はコホートを記述するものであり、個人を評定したり選考順位を生成したりするものではありません。

相対比較エビデンス ・ 20状況の難度

上位27%が20状況中2状況で模範行動を90%以上選択。グループ間ギャップが最大なのは CB-02-C(100pp)。

模範選択ダンベルチャート・状況別



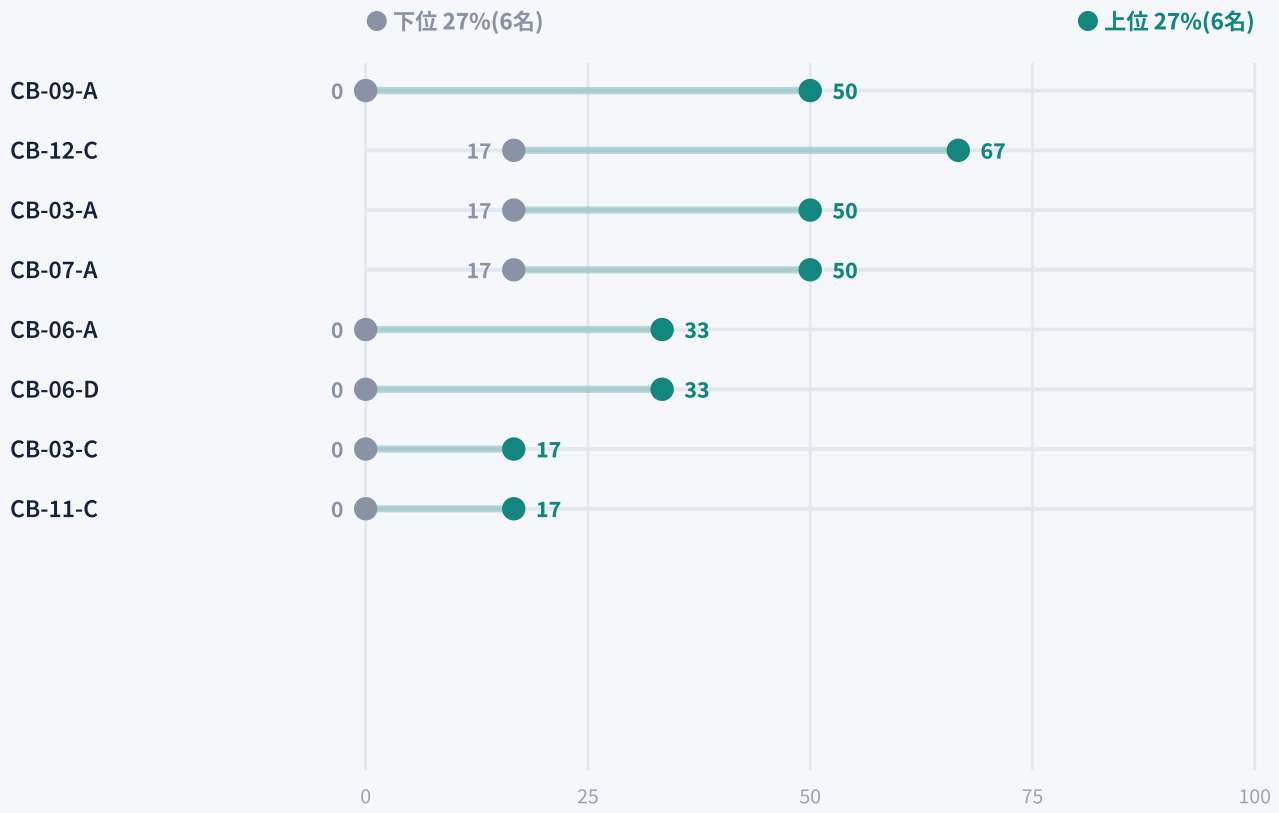
数値

状況(ギャップが大きい順)	下位 27%	上位 27%	ギャップ	平均 /8
CB-02-C	0%	100%	**100pp**	5.2
CB-04-B	0%	100%	**100pp**	4.5
CB-10-A	0%	83%	**83pp**	5.3
CB-11-B	0%	83%	**83pp**	5.4
CB-01-C	0%	67%	**67pp**	4.2
CB-02-A	0%	67%	**67pp**	4.9
CB-08-A	0%	67%	**67pp**	4.8
CB-12-A	0%	67%	**67pp**	4.7
CB-01-B	0%	50%	**50pp**	4.5
CB-05-A	0%	50%	**50pp**	4.4
CB-05-D	0%	50%	**50pp**	4.0
CB-07-C	0%	50%	**50pp**	4.3

相対比較エビデンス ・ 20状況の難度

模範選択率 続き・ギャップ順位 13-20。

模範選択ダンベルチャート・状況別



数値

状況(ギャップが大きい順)	下位 27%	上位 27%	ギャップ	平均 /8
CB-09-A	0%	50%	**50pp**	4.4
CB-12-C	17%	67%	**50pp**	5.0
CB-03-A	17%	50%	**33pp**	4.6
CB-07-A	17%	50%	**33pp**	5.0
CB-06-A	0%	33%	**33pp**	4.3
CB-06-D	0%	33%	**33pp**	4.4
CB-03-C	0%	17%	**17pp**	4.3
CB-11-C	0%	17%	**17pp**	4.1

読み方と見えること

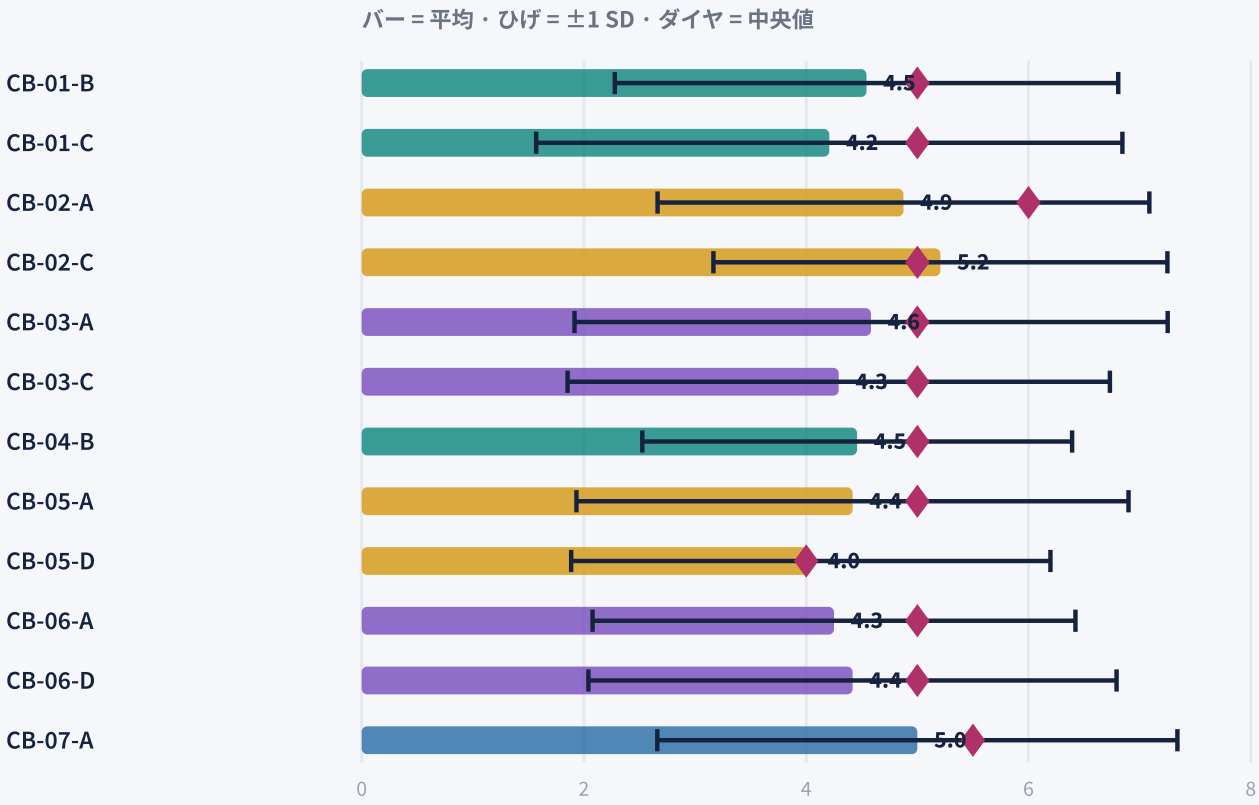
- 点 = 模範行動(キー 5)をベストに選んだグループ内の割合。グレー = 下位 27%(6名)、ティール = 上位 27%(6名)・グループは合計平均スコアで分割。
- ギャップが広いほど判断が最も分かれる状況を示します - 最大は CB-02-C の100pp、最小は CB-11-C の17pp。
- 上位グループの率が低いのはコホート全体が難しいと感じる状況を示します - オンボーディング優先順位のエビデンス。

算出根拠・このページの下位/上位の率は、このコホートの24名を合計平均スコアで下位27%と上位27%(各6名)に分けたうえで、模範行動(キー 5)をベストに選んだ割合です。上位グループが90%以上に達する状況: 20中2。

相対比較エビデンス ・ 状況別平均

状況別平均は1.3ポイントの幅で、4.0(CB-05-D)から5.4(CB-11-B)。判断が最も分かれるのは CB-12-C(SD 2.7)。

状況別スコア分布・平均 ±SD・中央値



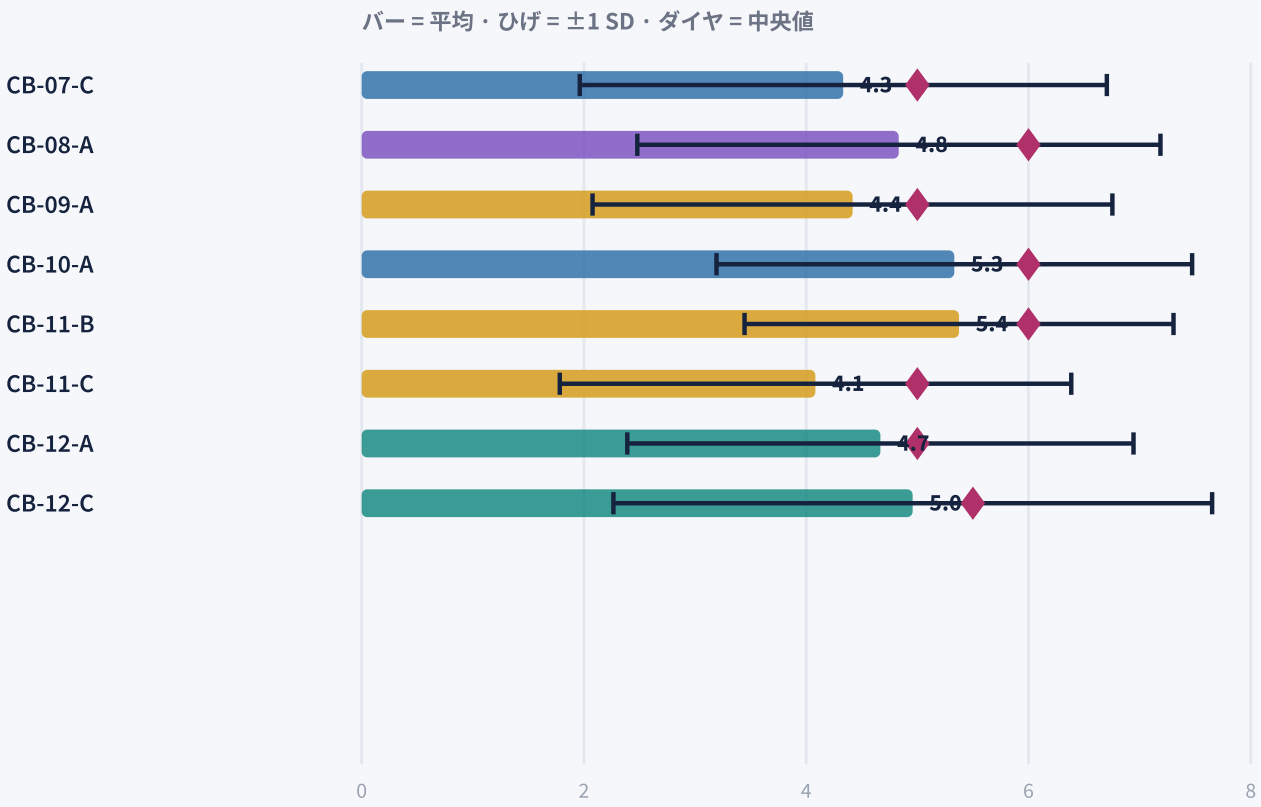
数値

状況	平均	SD	中央値	Q1–Q3	範囲
CB-01-B	**4.5**	2.3	5.0	3.0–6.0	1–8
CB-01-C	**4.2**	2.6	5.0	2.8–6.3	0–8
CB-02-A	**4.9**	2.2	6.0	3.0–7.0	1–8
CB-02-C	**5.2**	2.0	5.0	3.0–7.0	2–8
CB-03-A	**4.6**	2.7	5.0	2.8–6.3	0–8
CB-03-C	**4.3**	2.4	5.0	2.0–6.0	0–7
CB-04-B	**4.5**	1.9	5.0	3.0–5.3	1–8
CB-05-A	**4.4**	2.5	5.0	2.8–7.0	1–8
CB-05-D	**4.0**	2.2	4.0	2.0–5.3	0–8
CB-06-A	**4.3**	2.2	5.0	2.8–6.0	1–8
CB-06-D	**4.4**	2.4	5.0	2.8–7.0	1–8
CB-07-A	**5.0**	2.3	5.5	5.0–6.3	0–8

相対比較エビデンス ・ 状況別平均

スコア分布 続き・状況 13-20。

状況別スコア分布・平均 ±SD・中央値



数値

状況	平均	SD	中央値	Q1–Q3	範囲
CB-07-C	**4.3**	2.4	5.0	2.0–6.0	1–8
CB-08-A	**4.8**	2.4	6.0	3.0–7.0	1–8
CB-09-A	**4.4**	2.3	5.0	3.0–6.3	0–8
CB-10-A	**5.3**	2.1	6.0	4.5–7.0	1–8
CB-11-B	**5.4**	1.9	6.0	5.0–7.0	1–8
CB-11-C	**4.1**	2.3	5.0	2.5–6.0	0–7
CB-12-A	**4.7**	2.3	5.0	2.8–6.0	0–8
CB-12-C	**5.0**	2.7	5.5	3.0–7.3	0–8

読み方と見えること

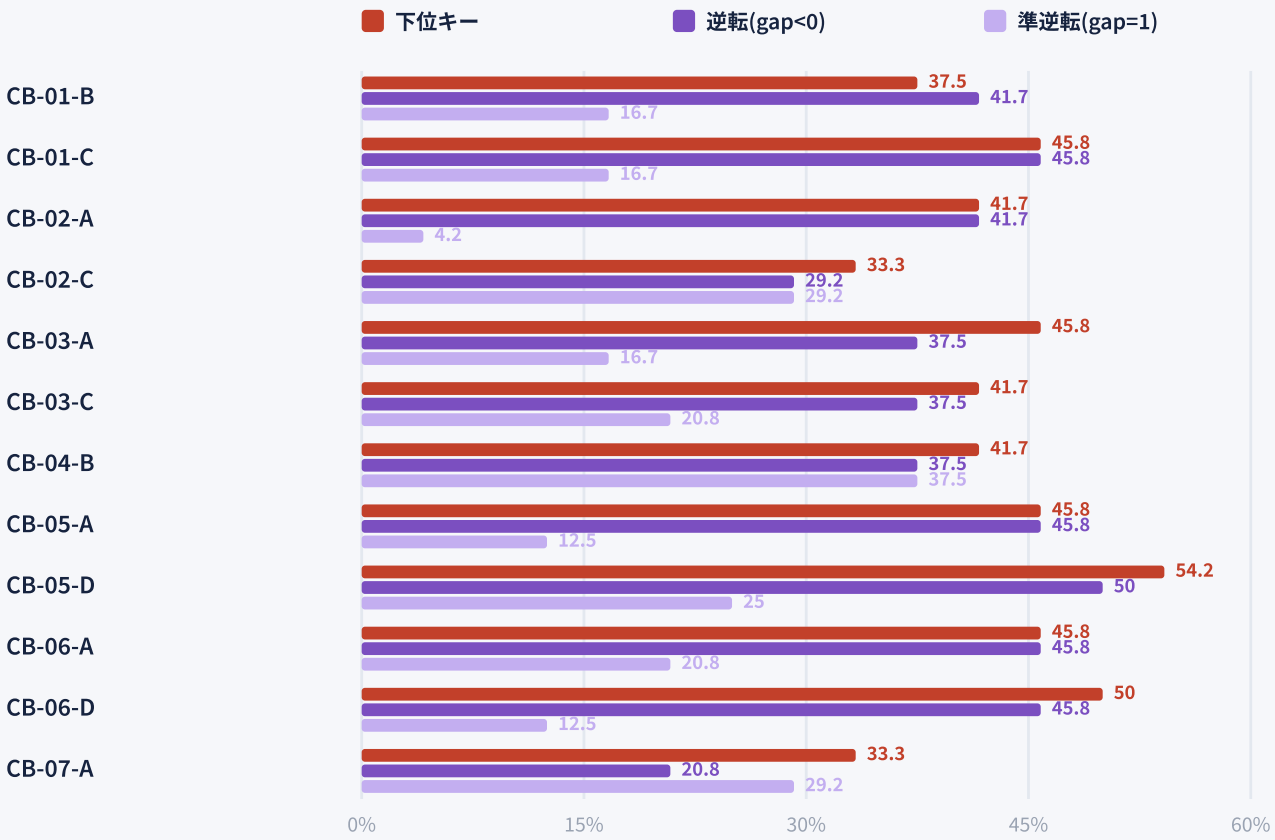
- スコア = 状況ごとに 0-8(ベスト順位 + (5 - ワースト順位))。すべての数値は24名の素の項目スコアから再計算されています。
- 最高平均は CB-11-B の 5.4/8、最低は CB-05-D の 4.0/8。最も広がり(SD)が大きいのは CB-12-C(2.7) - このコホートで最も意見が分かれる状況です。
- バーの色 = コンピテンシー軸。平均が低くひげが長いものはコホートレベルの育成優先事項です。

算出根拠・SD はこのコホート24名の状況スコア(0-8)の標本標準偏差(n−1)です。状況別 SD は 1.9-2.7、平均は 4.0-5.4 の範囲。すべての数値はメンバー単位の素の項目スコアから再計算されています。

相対比較エビデンス ・ 下位キー選択と逆転

下位キーのベスト選択が20状況で10%を超え、CB-05-D(54.2%)でピーク。逆転は CB-05-D(50%)に集中。

下位キー選択・逆転・準逆転 状況別



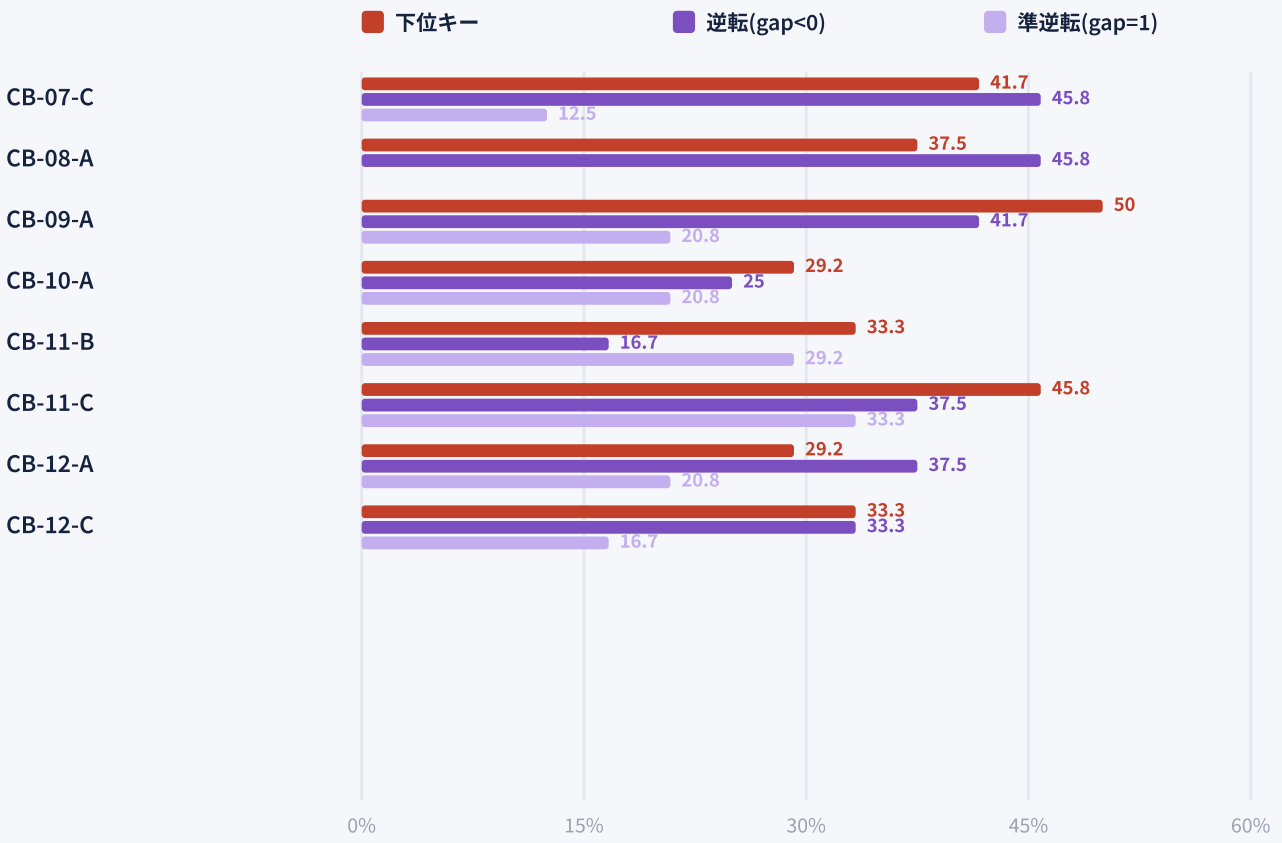
数値

状況	下位キー	逆転	準逆転	模範ベスト
CB-01-B	37.5%	41.7%	16.7%	29.2%
CB-01-C	45.8%	45.8%	16.7%	29.2%
CB-02-A	41.7%	41.7%	4.2%	29.2%
CB-02-C	33.3%	29.2%	29.2%	37.5%
CB-03-A	45.8%	37.5%	16.7%	29.2%
CB-03-C	41.7%	37.5%	20.8%	4.2%
CB-04-B	41.7%	37.5%	37.5%	25%
CB-05-A	45.8%	45.8%	12.5%	25%
CB-05-D	54.2%	50%	25%	20.8%
CB-06-A	45.8%	45.8%	20.8%	12.5%
CB-06-D	50%	45.8%	12.5%	25%
CB-07-A	33.3%	20.8%	29.2%	25%

相対比較エビデンス ・ 下位キー選択と逆転

下位キー選択 続き・状況 13-20。

下位キー選択・逆転・準逆転 状況別



数値

状況	下位キー	逆転	準逆転	模範ベスト
CB-07-C	41.7%	45.8%	12.5%	25%
CB-08-A	37.5%	45.8%	0%	33.3%
CB-09-A	50%	41.7%	20.8%	20.8%
CB-10-A	29.2%	25%	20.8%	29.2%
CB-11-B	33.3%	16.7%	29.2%	37.5%
CB-11-C	45.8%	37.5%	33.3%	20.8%
CB-12-A	29.2%	37.5%	20.8%	33.3%
CB-12-C	33.3%	33.3%	16.7%	41.7%

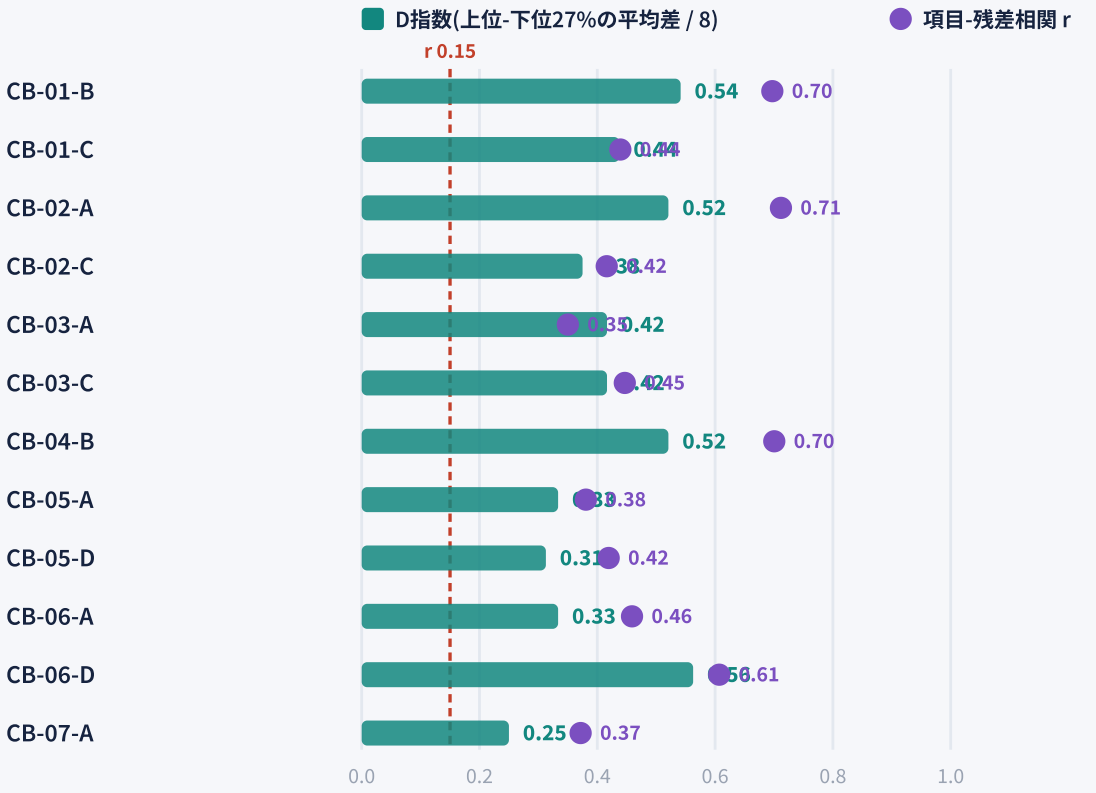
読み方と見えること

• 下位キーベスト = キー順位が最下位2つ(キー順位 1–2)の選択肢をベストに選ぶこと。逆転 = ベスト選択のキー順位がワースト選択より低いこと(gap<0)。準逆転 = 順位が1段階差(gap=1) - ほぼ逆転した判断。
• 480応答ペアのうち: 逆転 183件(38.1%)、準逆転 95件(19.8%)。24名(100.0%)が少なくとも1回下位キーベストを選択。
• 逆転と準逆転の両方が高い状況はキー/選択肢の見直し候補、下位キーのみの状況はコホートのコーチング対象です。
• 重大度タグ付きのリスク選択(fatal/high)はダッシュボード、項目の健全性、面接質問バンクの各ページで集計されています。

相対比較エビデンス ・ 集団識別力

12項目中12項目が作動基準(r ≥ 0.15)を上回る。分離が最も強いのは CB-06-D(D 0.56)。

状況別識別力・D指数 & 項目-残差相関 r



数値

状況	D指数	項目-残差 r	除去時 α	フラグ
CB-01-B	**0.54**	0.70	-0.013	作動中
CB-01-C	**0.44**	0.44	-0.004	作動中
CB-02-A	**0.52**	0.71	-0.013	作動中
CB-02-C	**0.38**	0.42	-0.004	作動中
CB-03-A	**0.42**	0.35	-0.000	作動中
CB-03-C	**0.42**	0.45	-0.004	作動中
CB-04-B	**0.52**	0.70	-0.012	作動中
CB-05-A	**0.33**	0.38	-0.002	作動中
CB-05-D	**0.31**	0.42	-0.004	作動中
CB-06-A	**0.33**	0.46	-0.005	作動中
CB-06-D	**0.56**	0.61	-0.010	作動中
CB-07-A	**0.25**	0.37	-0.002	作動中

読み方と見えること

- D指数 = (上位27%の平均 - 下位27%の平均) / 8 ・ 項目-残差 r = 項目と残り合計との相関 ・ 作動基準 r ≥ 0.15(破線)。
- 全体の信頼性 α = 0.878。除去時αが全体αを上回る項目は、除去すると信頼性が上がる項目を示します。
- 全12項目が作動基準を上回っています。

相対比較エビデンス ・ 集団識別力

状況 13–20・8項目中8項目が作動基準(r ≥ 0.15)を上回る。分離が最も強いのは CB-12-C(D 0.60)。

状況別識別力・D指数 & 項目-残差相関 r



数値

状況	D指数	項目-残差 r	除去時 α	フラグ
CB-07-C	**0.25**	0.36	-0.001	作動中
CB-08-A	**0.35**	0.45	-0.005	作動中
CB-09-A	**0.44**	0.58	-0.009	作動中
CB-10-A	**0.46**	0.59	-0.009	作動中
CB-11-B	**0.33**	0.46	-0.005	作動中
CB-11-C	**0.25**	0.26	0.002	作動中
CB-12-A	**0.42**	0.50	-0.006	作動中
CB-12-C	**0.60**	0.55	-0.008	作動中

読み方と見えること

- D指数 = (上位27%の平均 - 下位27%の平均) / 8・項目-残差 r = 項目と残り合計との相関・作動基準 r ≥ 0.15(破線)。
- 全体の信頼性 α = 0.878。除去時αが全体αを上回る項目は、除去すると信頼性が上がる項目を示します。
- 全8項目が作動基準を上回っています。

相対比較エビデンス ・ タイプ安定性リサンプリング

24名中16名が1,000回のリサンプルの80%以上でタイプを維持。未分化型が最も不安定なタイプ(平均78.8%)。

タイプ安定性の分布・1,000回リサンプリング



タイプ別

判断タイプ	N	平均安定性	≥80%
境界域	15	**84.0%**	10
未分化型	7	**78.8%**	4
バランス型	2	**98.9%**	2
有効行動寄り	0	**0.0%**	0
リスク識別寄り	0	**0.0%**	0

読み方と見えること

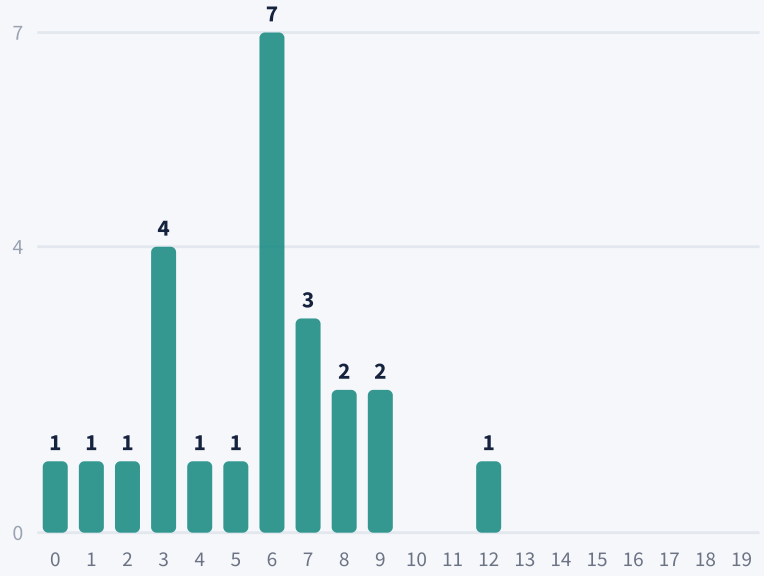
- 安定性 = メンバーのタイプを再現する1,000回の決定論的リサンプル(シード bw-v6|<member>)の割合。同一データは常に同一の結果を再現します。
- 80%以上でタイプは確固。未満では項目の組み合わせが変わるとタイプが動き得ます。コホート平均 83.7%、境界域(表示タイプの不確実性ルール)15名。
- タイプは人に貼るラベルではなくこの項目セット上の応答パターンです。安定性はそのパターンが項目構成にどれだけ敏感かを示します。

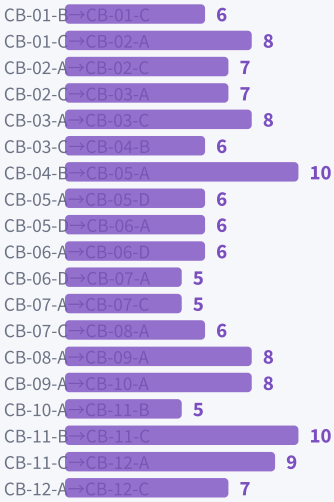
相対比較エビデンス ・ 軸の交互変動

メンバーは平均5.5回軸を交互に切り替え、1名は一度も切り替えなし。最も頻繁な境界は CB-04-B→CB-05-A(10名)。

軸の交互変動・メンバー別・境界別

左 = メンバーごとの交互変動回数・右 = 切り替えが起きる境界





数値

交互変動	N	割合	累積
0	1	4.2%	4.2%
1	1	4.2%	8.3%
2	1	4.2%	12.5%
3	4	16.7%	29.2%
4	1	4.2%	33.3%
5	1	4.2%	37.5%
6	7	29.2%	66.7%
7	3	12.5%	79.2%
8	2	8.3%	87.5%
9	2	8.3%	95.8%
10	0	0.0%	95.8%
11	0	0.0%	95.8%
12	1	4.2%	100.0%
13	0	0.0%	100.0%
14	0	0.0%	100.0%
15	0	0.0%	100.0%
16	0	0.0%	100.0%
17	0	0.0%	100.0%
18	0	0.0%	100.0%
19	0	0.0%	100.0%

読み方と見えること

• 状況の軸状態 = 有効識別(ベスト順位)が有害排除(6 - ワースト順位)を上回れば E、弱ければ H、同点はスキップ。連続する状況間の1回の E↔H 切り替えを1回の交互変動として数えます。
• 交互変動ゼロ: 1名が一貫して片方の軸で回答。交互変動が多い = 状況ごとに異なる軸に主導された応答 - パターンの記述であり、整合性の判定ではありません。
• 最も頻繁な境界: CB-04-B→CB-05-A、10名。

相対比較エビデンス ・ バンドマトリクス

応答の42.1%が 6-8 バンドに位置。
最低バンド(0-2)に入るのはわずか12.7%。

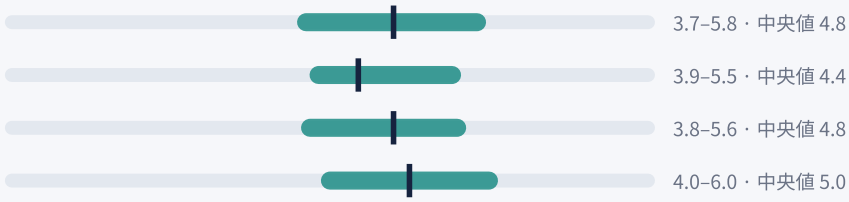
状況 × バンド マトリクス

セル = バンド内の人数(N)・最下行 = バンド合計

	0-2	2-4	4-6	6-8
CB-01-B	3	7	4	10
CB-01-C	4	7	4	9
CB-02-A	2	8	1	13
CB-02-C	0	7	7	10
CB-03-A	5	4	4	11
CB-03-C	5	4	5	10
CB-04-B	1	8	9	6
CB-05-A	5	6	3	10
CB-05-D	2	10	6	6
CB-06-A	3	8	5	8
CB-06-D	4	7	3	10
CB-07-A	4	1	7	12

コンピテンシーバンド

コンピテンシーバンド・バー = 25-75% 区間、目盛 = 中央値(0-8)



数値

状況	0-2	2-4	4-6	6-8	上位バンド	割合
CB-01-B	3	7	4	10	**6-8**	41.7%
CB-01-C	4	7	4	9	**6-8**	37.5%
CB-02-A	2	8	1	13	**6-8**	54.2%
CB-02-C	0	7	7	10	**6-8**	41.7%
CB-03-A	5	4	4	11	**6-8**	45.8%
CB-03-C	5	4	5	10	**6-8**	41.7%
CB-04-B	1	8	9	6	**4-6**	37.5%
CB-05-A	5	6	3	10	**6-8**	41.7%
CB-05-D	2	10	6	6	**2-4**	41.7%
CB-06-A	3	8	5	8	**2-4·6-8**	33.3%
CB-06-D	4	7	3	10	**6-8**	41.7%
CB-07-A	4	1	7	12	**6-8**	50.0%

相対比較エビデンス ・ バンドマトリクス

状況 × バンド マトリクス 続き・状況 13-20 とバンド合計。

状況 × バンド マトリクス

セル = バンド内の人数(N)・最下行 = バンド合計

	0-2	2-4	4-6	6-8
CB-07-C	3	8	3	10
CB-08-A	1	10	0	13
CB-09-A	4	6	5	9
CB-10-A	1	5	5	13
CB-11-B	2	2	7	13
CB-11-C	6	3	8	7
CB-12-A	1	8	5	10
CB-12-C	5	3	4	12
バンド合計	61	122	95	202

数値

状況	0-2	2-4	4-6	6-8	上位バンド	割合
CB-07-C	3	8	3	10	**6-8**	41.7%
CB-08-A	1	10	0	13	**6-8**	54.2%
CB-09-A	4	6	5	9	**6-8**	37.5%
CB-10-A	1	5	5	13	**6-8**	54.2%
CB-11-B	2	2	7	13	**6-8**	54.2%
CB-11-C	6	3	8	7	**4-6**	33.3%
CB-12-A	1	8	5	10	**6-8**	41.7%
CB-12-C	5	3	4	12	**6-8**	50.0%

読み方と見えること

- バンドは 0-8 の項目スコアを2ポイント刻みで分けたものです。セルはその状況でそのバンドに入った人数を数えます。
- 全288ペアのうち、12.7%が 0-2 バンド、42.1%が 6-8 バンド。分布が1つのバンドに集中する状況はメンバーをあまり分離しません。
- コンピテンシーバンドはメンバーごとのコンピテンシー平均の 25-75% 区間です。区間が広い = コホート内のばらつきが大きい。

相対比較エビデンス ・ 9グラフ統合

20状況で平均 D は 0.41。分離は CB-02-C の100ppから CB-03-C の17ppまでの幅。

9つのエビデンスを一目で

1. 難度ギャップ(上位 - 下位27%)
100pp / 17pp
CB-02-C / CB-03-C



2. 状況別平均の範囲
4.0 – 5.4
CB-05-D – CB-11-B



3. 逆転選択(全ペア中)
38.1%
480ペア中 gap < 0



4. 識別力 D
平均 0.41
最低 CB-11-C 0.25



5. タイプ安定性 ≥80%
16・67%
境界域15名が最も不安定



6. 軸の交互変動(平均)
5.5
CB-04-B→CB-05-A 10



7. 6-8 バンドの割合
42.1%
0-2 バンド 12.7%



8. 信頼性(α・折半法)
0.88・0.88
20/20項目が r = 0.15 以上



9. 有害選択のあるメンバー
100.0%
24名中24名



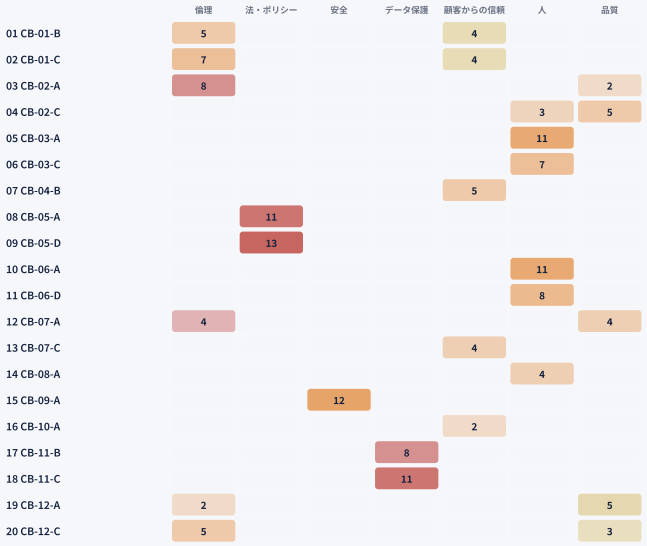
3文による統合

① 20状況で平均 D は 0.41、応答の42%が 6-8 バンドに位置。② 分離は状況によって大きく異なります: CB-02-C は上位-下位で100ppのギャップを示す一方、CB-03-C は17ppにとどまりほぼ平坦です。③ タイプは67%で安定していますが、境界域の15名は項目構成で変わり得ます。有害選択率100%と38.1%の逆転は、面接で掘るべき領域を示しています。

リスク集中度

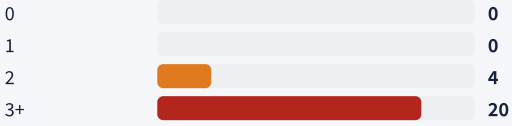
有害選択は均等に広がっていません。CB-05-D と CB-06-D に最も集中しています。

有害な選択肢をベストに選んだ人・シナリオ × リスク領域



数字 = 人数・色 = セル内の最高重大度(赤 重大・オレンジ 高・黄 注意、重大度タグ)・
濃いほど多い・空白 = その領域に選択肢なし・
パネルタグのない6つのキー順位2の選択肢は未分類 - 行合計: 06 CB-03-C 3・07 CB-04-B 5・11 CB-06-D 4・13 CB-07-C 6・14 CB-08-A 5・16 CB-10-A 5・
これらの人は上のどのセルにもカウントされていません

1人あたりのリスク選択



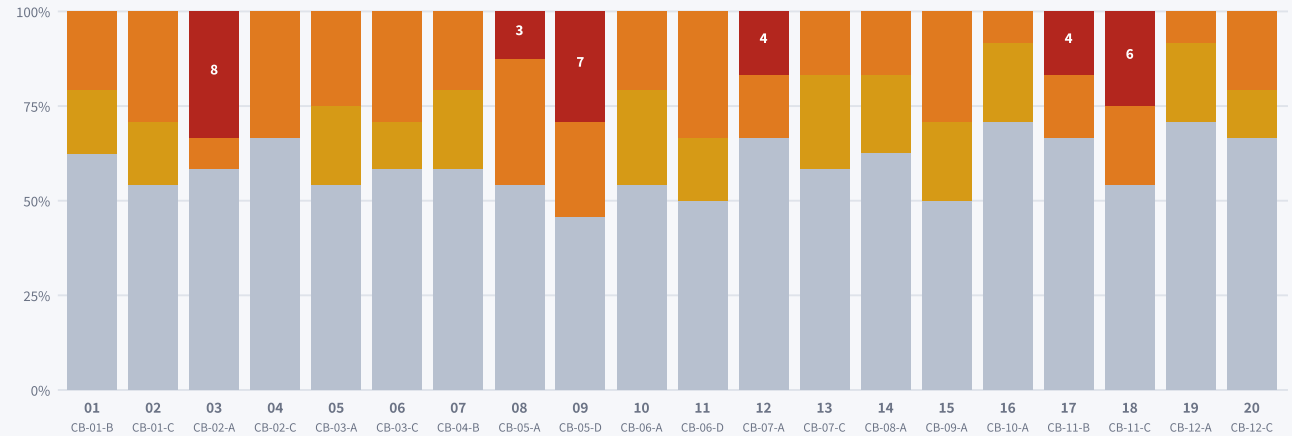
繰り返しパターン(同一領域2回以上)13名・最も有害な選択肢(キー 1)を少なくとも1回 20名

最も選ばれた有害な選択肢・上位6

③ CB-02-A	元の数値をそのまま残す…	キー 1	重大	33%
⑧ CB-05-A	承認が来ると想定して送信する…	キー 2	高	33%
⑪ CB-06-D	…という理由で重要な仕事から外す	キー 1	高	33%
② CB-01-C	スタッフに反論コメントを投稿させる…	キー 1	高	29%
⑥ CB-03-C	一方の側に立ち、…の削除を提案する	キー 1	高	29%
⑨ CB-05-D	競合の価格表を持ち出して利用する…	キー 1	重大	29%

選択肢は要約のみ表示・研修・
オンボーディングコンテンツの優先順位として使用可能。

状況別ベスト選択の有害度

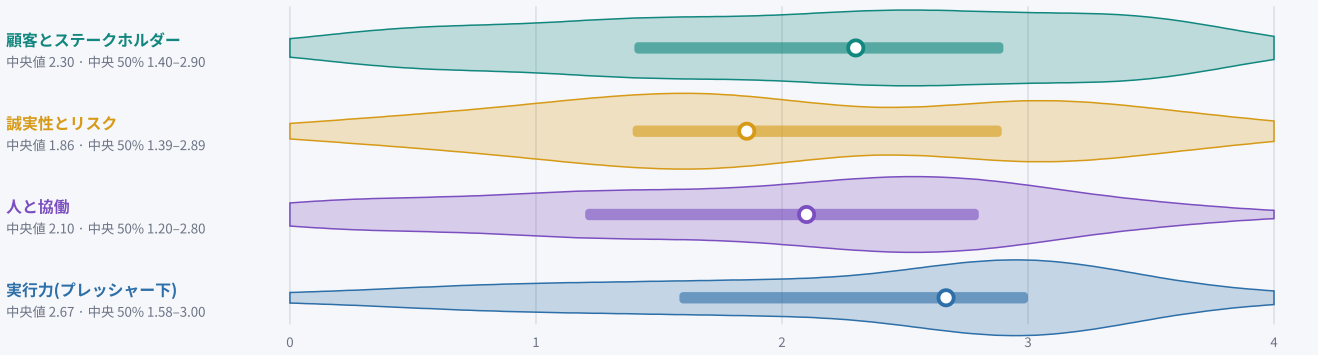


バー = その状況でベストに選ばれた選択肢の有害度の構成比(%、重大度タグ)。オレンジ/赤の部分が大きい状況が面接と研修で最優先です。

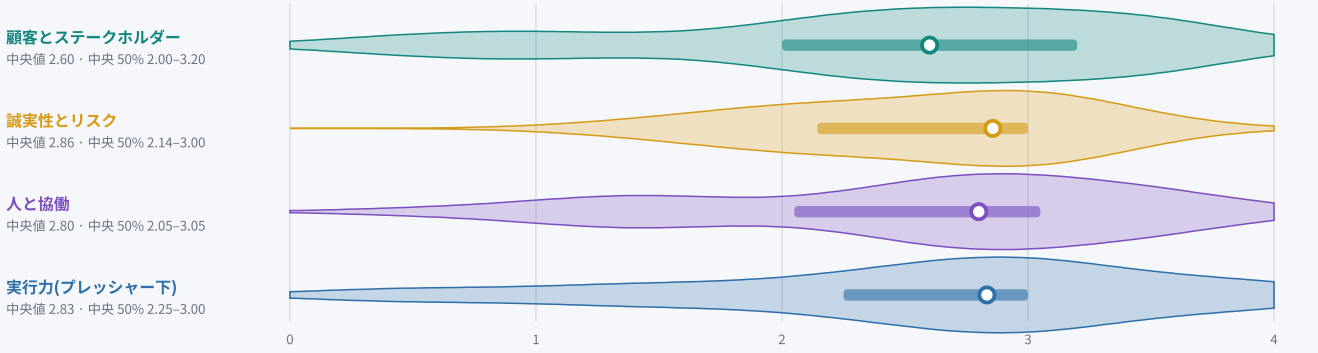
コンピテンシープロファイル ・ コホート

このコホートは「実行力(プレッシャー下)」が最も安定し、「顧客とステークホルダー」が最もばらついています。オンボーディングの焦点設定にご利用ください。

コンピテンシー別ベストクレジット



コンピテンシー別ワーストクレジット



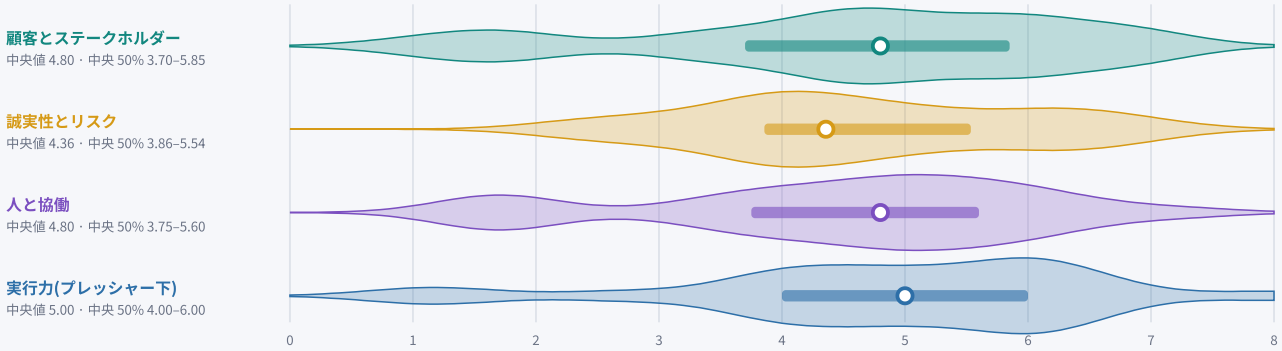
読み方

形 = ばらつき、濃いバー = 中央 50%、白い点 = 中央値。コンピテンシーあたり2–4状況のため、個人の読み取りではなく集団の傾向にご利用ください。

育成 ・ オンボーディング計画

「顧客とステークホルダー」からオンボーディングを始めると最も多くの人に効果があります。各提案はこのコホートが実際に誤った状況に紐づいています。

コンピテンシー別コホートのばらつき・ベスト＋ワーストクレジット



誠実性とリスク・中央値 4.4/8

エビデンス・最も誤答された状況 CB-05-D(平均 4.0/8・大きなミス 38%・逆転 50%)
対象者・このコンピテンシーで5以下の16名(67%)
1週目・CB-05-D ケースワークショップ: 模範行動「丁寧に断り、使用できないと伝え、…に報告する」 vs 最も多い誤答
1か月目・メンターと類似の実際の意思決定を1件振り返る
3か月目・同一コンピテンシーの状況で短い再チェック(新しい項目バージョン、同一採点)

顧客とステークホルダー・中央値 4.8/8

エビデンス・最も誤答された状況 CB-01-C(平均 4.2/8・大きなミス 25%・逆転 46%)
対象者・このコンピテンシーで5以下の14名(58%)
1週目・CB-01-C ケースワークショップ: 模範行動「顧客に連絡して問題を確認し、その後…を投稿する」 vs 最も多い誤答
1か月目・メンターと類似の実際の意思決定を1件振り返る
3か月目・同一コンピテンシーの状況で短い再チェック(新しい項目バージョン、同一採点)

育成 ・ オンボーディング計画

「顧客とステークホルダー」からオンボーディングを始めると最も多くの人に効果があります。各提案はこのコホートが実際に誤った状況に紐づいています。 ・続き

人と協働・中央値 4.8/8

エビデンス・最も誤答された状況 CB-06-A(平均 4.3/8・大きなミス 42%・逆転 46%)
対象者・このコンピテンシーで5以下の15名(63%)
1週目・CB-06-A ケースワークショップ: 模範行動「今日のファイルを一緒に直し、原因を見つけて…」 vs 最も多い誤答
1か月目・メンターと類似の実際の意思決定を1件振り返る
3か月目・同一コンピテンシーの状況で短い再チェック(新しい項目バージョン、同一採点)

実行力(プレッシャー下)・中央値 5.0/8

エビデンス・最も誤答された状況 CB-07-C(平均 4.3/8・大きなミス 33%・逆転 46%)
対象者・このコンピテンシーで5以下の13名(54%)
1週目・CB-07-C ケースワークショップ: 模範行動「代替会場を迅速に確保し、決まり次第…に伝える」 vs 最も多い誤答
1か月目・メンターと類似の実際の意思決定を1件振り返る
3か月目・同一コンピテンシーの状況で短い再チェック(新しい項目バージョン、同一採点)

根拠と限界

- 各カードは汎用的な研修リストではなく、このコホートが最も誤った状況から作られています。
- これらはオンボーディングの提案であり、検証済みのプログラムではありません。

オンボーディング証跡レコード

チェックポイント	記録すべき業務エビデンス
1週目	ケースディスカッション、検討した選択肢、選んだ行動の理由。
1か月目	類似の実際の意思決定1件とメンターの所見。
3か月目	フォームのバージョンと採点根拠を記録した同一コンピテンシーのチェック。

これは提案された記録様式であり、測定された研修効果ではありません。
観察された変化は元の評価結果とは別に追跡してください。

面接質問バンク ・ コホートのリスク選択から構築

リスク選択が最も多い5つのシナリオ向けの構造化質問と、各質問の対象者。

⑨ CB-05-D ・ 13名 ・ 重大 7

「‘CB-05-D’ — 競合から入社した同僚が…を見せると申し出た。あなたはどうしますか?」

フォローアップ: もし誰かが「競合の価格表を持ち出して利用する…」と提案したら?

強い回答	懸念	ID(ID順)
模範行動の原則(「丁寧に断り、使用できないと伝え、…に報告する」)に到達するか	「競合の価格表を持ち出して利用する…」を擁護する	Sample 002、Sample 005、Sample 006、Sample 010 ほか9名

⑪ CB-06-D ・ 12名 ・ 重大 8

「‘CB-06-D’ — リモートの新入社員が…の間チームとほとんど交流していない。あなたはどうしますか?」

フォローアップ: もし誰かが「…だから重要な仕事から外す」と提案したら?

強い回答	懸念	ID(ID順)
模範行動の原則(「1対1で馴染めているかを尋ね、…の仕組みを作る」)に到達するか	「…だから重要な仕事から外す」を擁護する	Sample 002、Sample 004、Sample 006、Sample 007 ほか8名

⑮ CB-09-A ・ 12名 ・ 重大 7

「‘CB-09-A’ — 現場チェックで、軽微だが繰り返される安全ルールの…を目にした。あなたはどうしますか?」

フォローアップ: もし誰かが「スケジュールが厳しいので…で提起する」と提案したら?

強い回答	懸念	ID(ID順)
模範行動の原則(「作業を止め、原因を確認し、対処して記録する」)に到達するか	「スケジュールが厳しいので…で提起する」を擁護する	Sample 002、Sample 004、Sample 005、Sample 006 ほか8名

② CB-01-C ・ 11名 ・ 重大 7

「‘CB-01-C’ — 製品の欠陥を主張する顧客の投稿がSNSで広がっている。あなたはどうしますか?」

フォローアップ: もし誰かが「スタッフに反論コメントを投稿させる…」と提案したら?

強い回答	懸念	ID(ID順)
模範行動の原則(「顧客に連絡して問題を確認し、その後…を投稿する」)に到達するか	「スタッフに反論コメントを投稿させる…」を擁護する	Sample 006、Sample 007、Sample 009、Sample 010 ほか7名

⑤ CB-03-A ・ 11名 ・ 重大 6

「‘CB-03-A’ — 会議で同僚が…の前であなたの提案を皮肉たっぷりにけなした。あなたはどうしますか?」

フォローアップ: もし誰かが「その…の不満をこっそり広める」と提案したら?

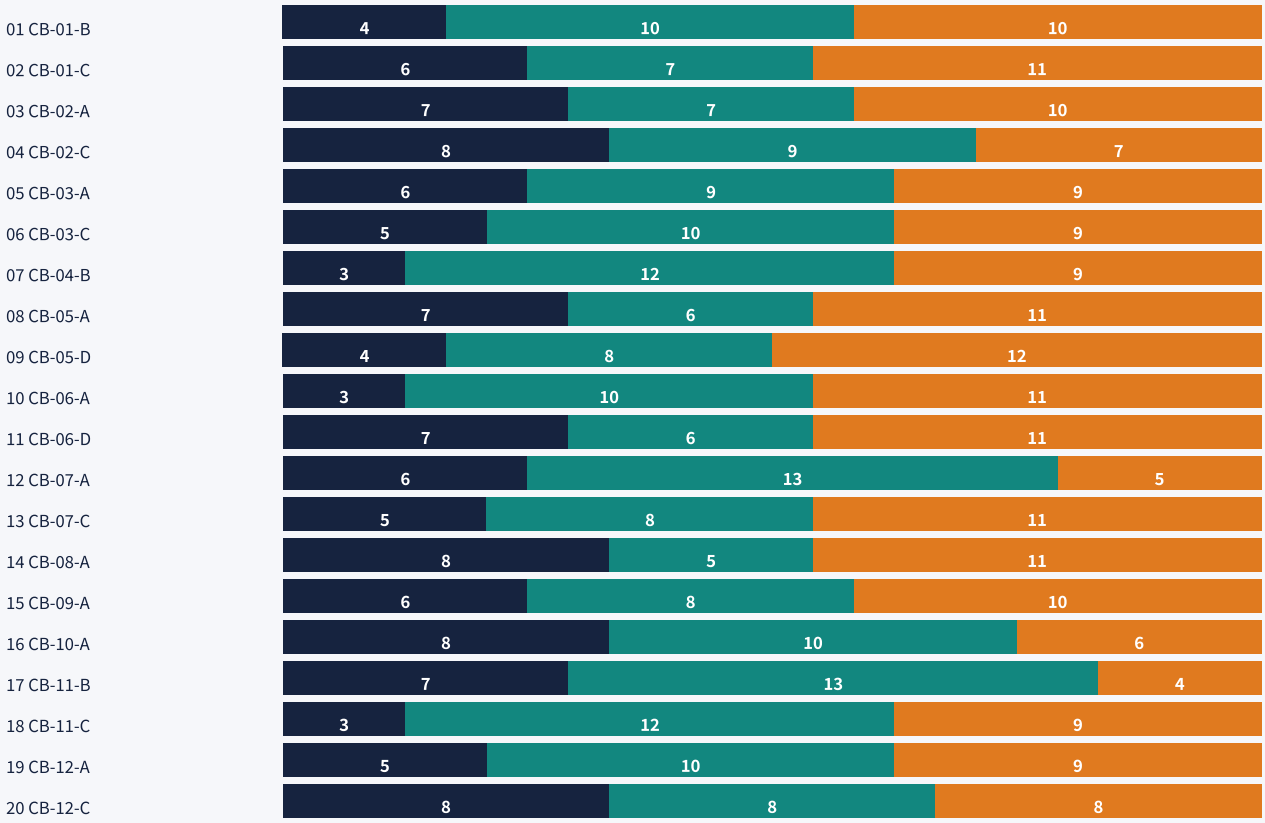
強い回答	懸念	ID(ID順)
模範行動の原則(「会議後に1対1でその場面を取り上げ、…」)に到達するか	「その…の不満をこっそり広める」を擁護する	Sample 001、Sample 002、Sample 004、Sample 006 ほか7名

リスク選択(fatal/high)による上位5シナリオ・各個人レポートの13ページ(面接・育成ガイド)と同じ方式で生成・全20シナリオの質問はHTML版と監査付録にあります・最終的な選択は面接官が行います。

面接質問バンク ・ コホートのリスク選択から構築

状況別項目スコアバンド・
幅の広いオレンジのバンドが面接の優先事項。

状況別項目スコアバンド・24名



ネイビー 7–8・ティール 5–6・オレンジ 0–3(項目スコア 0–8。S1では4は発生し得ない)。
オレンジのバンドが広い状況が、面接質問を最初に投げる先です。

比較の基準

各行は24名全員を1回ずつ含みます。3つのセグメントは相互に排他的なスコアバンドです。
セグメントのラベルは割合ではなく人数です。バンドのパターンでフォローアップする状況を選び、
その後その人が実際に選んだ行動を確認してください。

面接官ガイド詳細

リスク選択が最も多い4つの状況と、タイプごとの面接の焦点(誰に何を聞くか)をこのセクション全体で示します。

タイプ別の面接の焦点

タイプ・人数	面接の焦点	強い回答のサイン
2 バランス型	強みの確認・最も難しい判断の理由	実例を挙げて、なぜその判断が成り立つのかを説明できるか
7 両軸ともエビデンス不足	両軸・状況をどう読んだかの確認から始める	主要なステークホルダーを特定できるか
15 境界域	区間がカットラインに接する・リスク選択の状況に焦点	状況を説明し直すと判断が変わるか

表示タイプ別メンバー

タイプの人数はダッシュボード、名簿、レポート見出しと同じスコアラー出力を使用しています。24名全員が1回ずつカウントされています。
境界域は低スコアではなく不確実性のラベルです。

バランス型・2名

Sample 001、Sample 017

未分化型・7名

Sample 002、Sample 005、Sample 008、Sample 010、Sample 012、Sample 018、Sample 024

境界域・15名

Sample 003、Sample 004、Sample 006、Sample 007、Sample 009、Sample 011、Sample 013、Sample 014、Sample 015、Sample 016、Sample 019、Sample 020、Sample 021、Sample 022、Sample 023

面接官ガイド詳細

リスク選択が最も多い4つの状況と、タイプごとの面接の焦点(誰に何を聞くか)をこのセクション全体で示します。 ・続き

09 CB-05-D・13名

聞くこと・「CB-05-D のような状況で、まず何をしましたか。それはなぜですか?」
強い回答・模範行動の方向:「丁寧に断り、使用できないと…」
弱い回答・最も多いリスク選択を擁護:「競合の価格表を持ち出して…」
対象者・Sample 002、Sample 005、Sample 006、Sample 010、Sample 012、Sample 013 …

11 CB-06-D・12名

聞くこと・「CB-06-D のような状況で、まず何をしましたか。それはなぜですか?」
強い回答・模範行動の方向:「1対1で馴染めているかを尋ね…」
弱い回答・最も多いリスク選択を擁護:「重要な仕事から外す…」
対象者・Sample 002、Sample 004、Sample 006、Sample 007、Sample 010、Sample 012 …

15 CB-09-A・12名

聞くこと・「CB-09-A のような状況で、まず何をしましたか。それはなぜですか?」
強い回答・模範行動の方向:「作業を止め、原因を確認し、対処…」
弱い回答・最も多いリスク選択を擁護:「スケジュールが厳しいので…で提起する」
対象者・Sample 002、Sample 004、Sample 005、Sample 006、Sample 007、Sample 008 …

02 CB-01-C・11名

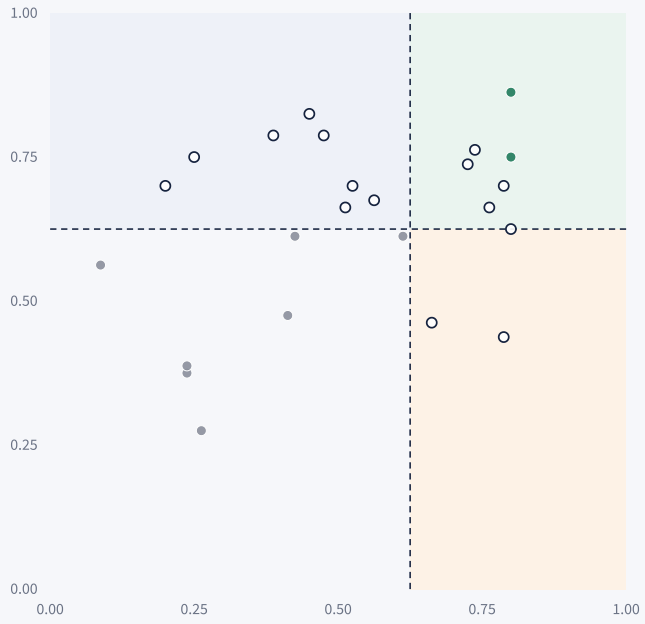
聞くこと・「CB-01-C のような状況で、まず何をしましたか。それはなぜですか?」
強い回答・模範行動の方向:「顧客に連絡して確認し…」
弱い回答・最も多いリスク選択を擁護:「スタッフに反論コメントを投稿させる…」
対象者・Sample 006、Sample 007、Sample 009、Sample 010、Sample 012、Sample 016 …

使い方

• 各個人レポートの深掘り質問ページと併用してください。
このページはコホート全体で誰に何を聞くかを整理しています。
• 回答はチェックと一文で記録し、新しいスコアは作らないでください。

判断の全体像 ・ 区間構造

15名が採点ルール上「境界域」と表示され、そのタイプは不確実として扱う必要があります。信頼性0.90には約24項目が必要です(Spearman-Brown)。



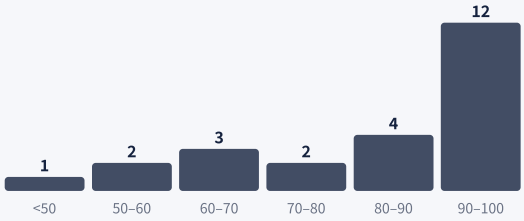
色 = タイプ・中空 = 境界域(表示タイプの不確実性ルール)・1点 = 仮名の1人・順位付けなし

タイプ分布



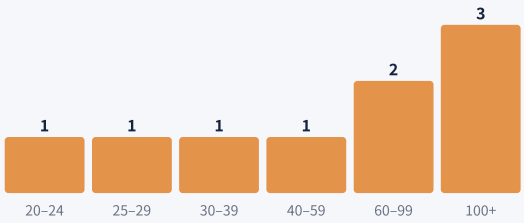
バランス型 2　有効行動に強み、リスク識別は育成対象 0
リスク識別に強み、有効行動は育成対象 0
両軸ともエビデンス不足 7　境界域・タイプなし 15

タイプ安定性(1,000回リサンプリング)



同じゾーンに留まるリサンプルの % 別人数・80%以上: 16名

境界域・タイプ確定に必要な項目数(推定)



必要項目数 ≈ 20 × (区間の半幅 ÷ カットラインまでの距離)²・中央値 62項目・有限の推定値: 9/15。残りのメンバーは有限の推定値なし・確実なタイプ確定ではなく追加のエビデンスを使用

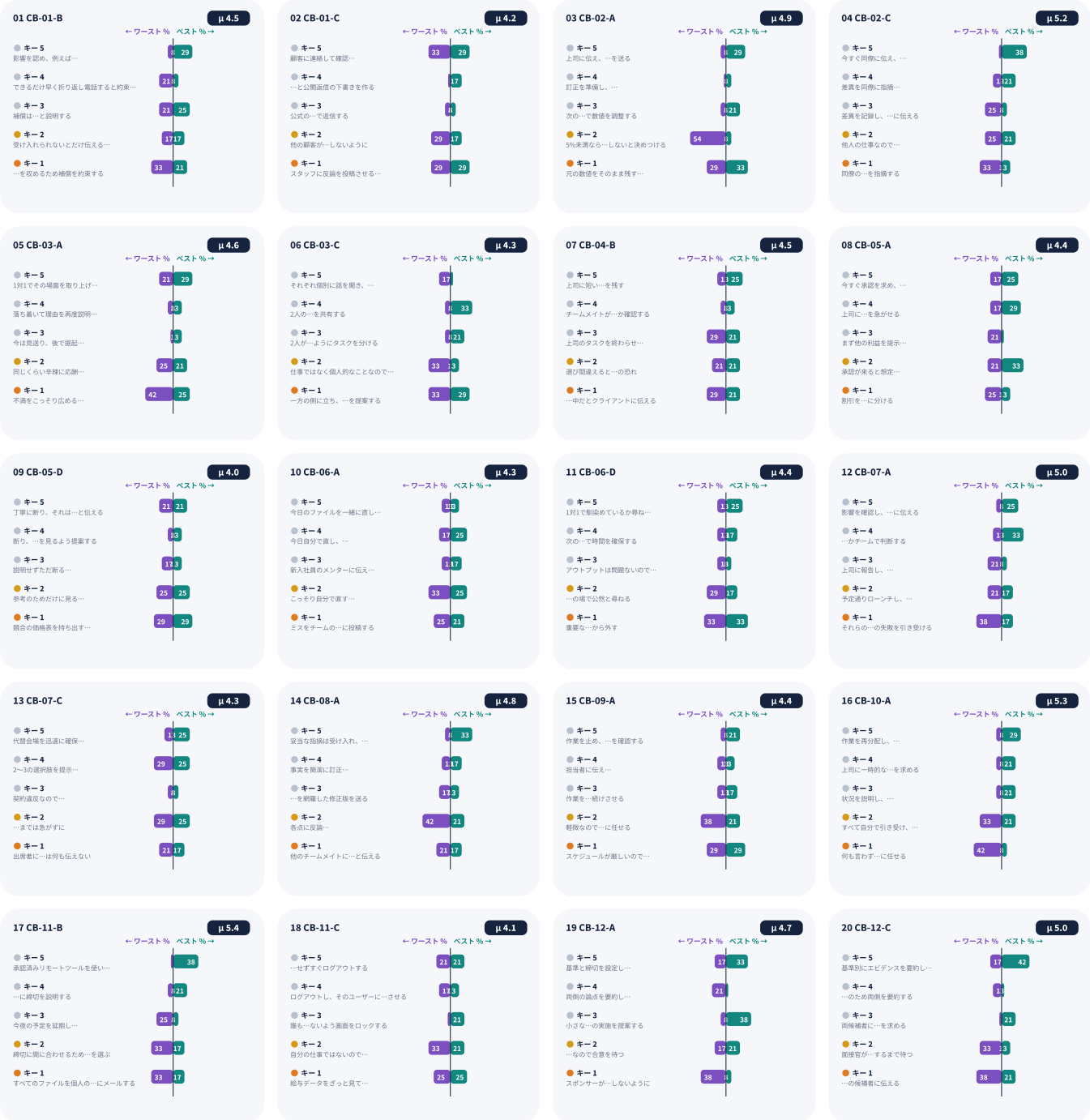
バランス型
2
平均 有効行動 0.80・平均 有害識別 0.81

両軸ともエビデンス不足
7
平均 有効行動 0.33・平均 有害識別 0.47

境界域
15
平均 有効行動 0.57・平均 有害識別 0.69

選択分布 · 20状況 × 5選択肢

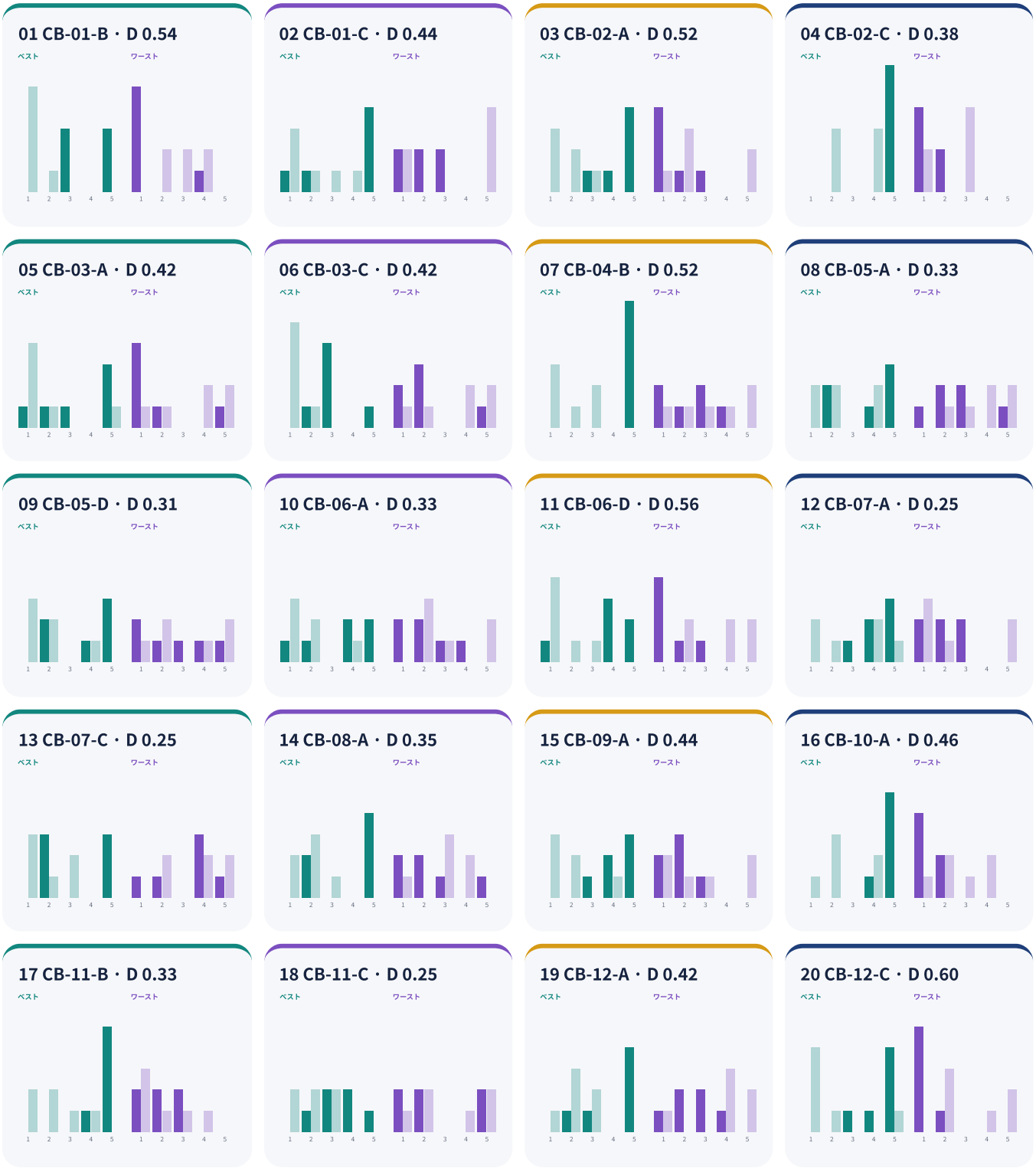
ほとんどの状況で、模範行動が最も多いベスト選択、最も有害な行動が最も多いワースト選択です。例外は項目の健全性ページで扱います。



選択肢はキー順(キー 5 = 模範 … キー 1 = 最も有害)。24名がそれぞれベスト(ティール)・ワースト(紫)に選んだ割合を表示。μ = 項目平均スコア。
他の選択肢のベストバーが模範行動より長い場合、キーの見直しが必要です。

ディストラクター分析 ・ 上位27% 対 下位27%

20状況中15状況で、上位グループは模範行動をベストに、最も有害な行動をワーストにより多く選択。残りはディストラクター分析に現れます。



読み方と見えること

- バー = キー 1…5 ごとの選択割合・実線 = 上位 27%(6名)・淡色 = 下位 27%(6名)。
- 機能している項目: ベストでは上位グループがキー 5 で高く、ワーストでは上位グループがキー 1 で高い。
- 下位グループにより多く選ばれた中間の選択肢(魅力的なディストラクター): 01·キー 2、02·キー 3、02·キー 4、03·キー 2、04·キー 2、04·キー 4、07·キー 2、07·キー 3、08·キー 4、10·キー 2、11·キー 2、11·キー 3、12·キー 2、13·キー 3、14·キー 2、14·キー 3 ほか9件

項目の健全性 · キー点検

1項目1行: 機能しているか、次に何をするか。このコホートがテストの次のラウンドをより良くします。

シナリオ	ベスト=キー 5	ワースト=キー 1	識別力 r [95% CI]	非模範ベスト最多	有害ベスト	フラグ	推奨アクション
01 CB-01-B	29%	33%	0.70 [0.41, 0.86]	キー 3 · 25%	38%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持 · 面接バンクで自動提案 · 競合する選択肢の文言を確認
02 CB-01-C	29%	29%	0.44 [0.04, 0.72]	キー 1 · 29%	46%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持 · 面接バンクで自動提案 · 競合する選択肢の文言を確認
03 CB-02-A	29%	29%	0.71 [0.43, 0.87]	キー 1 · 33%	42%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持 · 面接バンクで自動提案 · 競合する選択肢の文言を確認
04 CB-02-C	38%	33%	0.42 [0.02, 0.70]	キー 4 · 21%	33%	リスクの集中点	維持 · 面接バンクで自動提案
05 CB-03-A	29%	42%	0.35 [-0.06, 0.66]	キー 1 · 25%	46%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持 · 面接バンクで自動提案 · 競合する選択肢の文言を確認
06 CB-03-C	4%	33%	0.45 [0.05, 0.72]	キー 4 · 33%	42%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持 · 面接バンクで自動提案 · 競合する選択肢の文言を確認
07 CB-04-B	25%	29%	0.70 [0.41, 0.86]	キー 2 · 21%	42%	リスクの集中点	維持 · 面接バンクで自動提案
08 CB-05-A	25%	25%	0.38 [-0.03, 0.68]	キー 2 · 33%	46%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持 · 面接バンクで自動提案 · 競合する選択肢の文言を確認
09 CB-05-D	21%	29%	0.42 [0.02, 0.70]	キー 1 · 29%	54%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持 · 面接バンクで自動提案 · 競合する選択肢の文言を確認
10 CB-06-A	13%	25%	0.46 [0.07, 0.73]	キー 2 · 25%	46%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持 · 面接バンクで自動提案 · 競合する選択肢の文言を確認

ルール: 低識別力 r < 0.15 · 競合する選択肢 = 25%以上にベストとして選ばれた非模範の選択肢 · リスクの集中点 = 20%以上にベストとして選ばれた有害な選択肢。
キーの変更は新しい key_version としてのみ適用されます。

項目の健全性 ・ キー点検

項目の健全性テーブル 続き・シナリオ 11-20。

シナリオ	ベスト=キー5	ワースト=キー1	識別力 r [95% CI]	非模範ベスト最多	有害ベスト	フラグ	推奨アクション
11 CB-06-D	25%	33%	0.61 [0.27, 0.81]	キー 1・33%	50%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持・ 面接バンクで自動提案・ 競合する選択肢の文言を確認
12 CB-07-A	25%	38%	0.37 [-0.04, 0.67]	キー 4・33%	33%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持・ 面接バンクで自動提案・ 競合する選択肢の文言を確認
13 CB-07-C	25%	21%	0.36 [-0.05, 0.66]	キー 2・25%	42%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持・ 面接バンクで自動提案・ 競合する選択肢の文言を確認
14 CB-08-A	33%	21%	0.45 [0.05, 0.72]	キー 2・21%	38%	リスクの集中点	維持・ 面接バンクで自動提案
15 CB-09-A	21%	29%	0.58 [0.23, 0.79]	キー 1・29%	50%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持・ 面接バンクで自動提案・ 競合する選択肢の文言を確認
16 CB-10-A	29%	42%	0.59 [0.24, 0.80]	キー 2・21%	29%	リスクの集中点	維持・ 面接バンクで自動提案
17 CB-11-B	38%	33%	0.46 [0.07, 0.73]	キー 4・21%	33%	リスクの集中点	維持・ 面接バンクで自動提案
18 CB-11-C	21%	25%	0.26 [-0.16, 0.60]	キー 1・25%	46%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持・ 面接バンクで自動提案・ 競合する選択肢の文言を確認
19 CB-12-A	33%	38%	0.50 [0.12, 0.75]	キー 3・38%	29%	競合する選択肢 リスクの集中点	維持・ 面接バンクで自動提案・ 競合する選択肢の文言を確認
20 CB-12-C	42%	38%	0.55 [0.18, 0.78]	キー 1・21%	33%	リスクの集中点	維持・ 面接バンクで自動提案

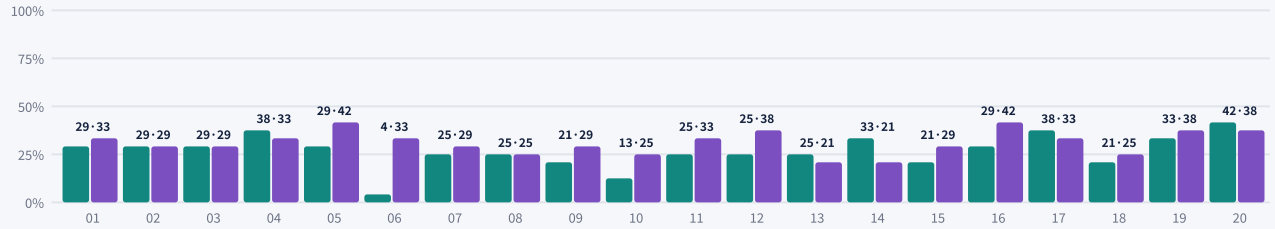
前ページからの続き(シナリオ 11-20)。

項目の健全性 ・ キー点検

サマリー指標と状況別キー一致チャート。

平均識別力	キーとの一致(ベスト)	次ラウンドのアクション
0.49	27%	0
平均補正項目-合計 r、20項目	キー 5 をベストに選んだ全応答の割合	見直す項目

状況別キーとの一致度・模範行動をベスト / 最も有害をワースト



ティール = キー 5(模範行動)をベストに選んだ割合、紫 = キー 1(最も有害)をワーストに選んだ割合。
両方が低い状況はキー見直し候補です。

キー一致の読み方

各バーは同じ24名の分母を使います。ベストのキー 5 は模範行動との一致、ワーストのキー 1 は最下位行動との一致です。一致度が低い場合は文言や採点キーの見直しにつながり得ますが、項目の欠陥や個人のスキル不足の証明ではありません。項目-残差相関とその区間はこのチャートと併せて示されます。

項目識別力の詳細

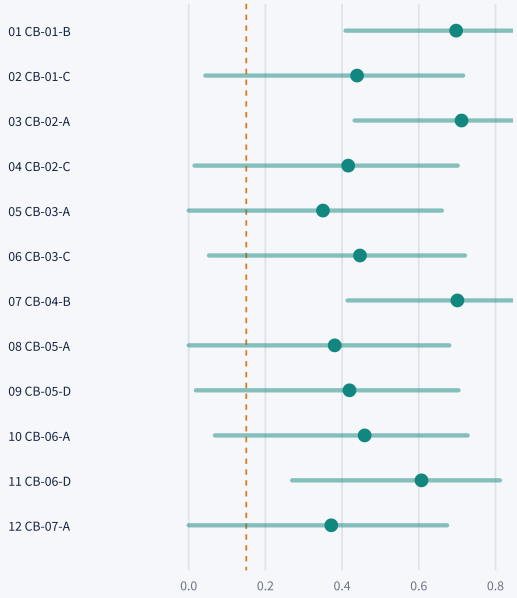
12項目中12項目が上位・下位グループを明確に分離しています。

易しさ × 識別力・円の大きさ = 項目-残差相関



オレンジ = D < 0.25。縦軸 = (上位27%の平均 − 下位27%の平均) / 8。

項目-残差相関・95% 区間



破線 = 0.15 見直しライン。

項目のストーリー・各項目が機能する理由、しない理由

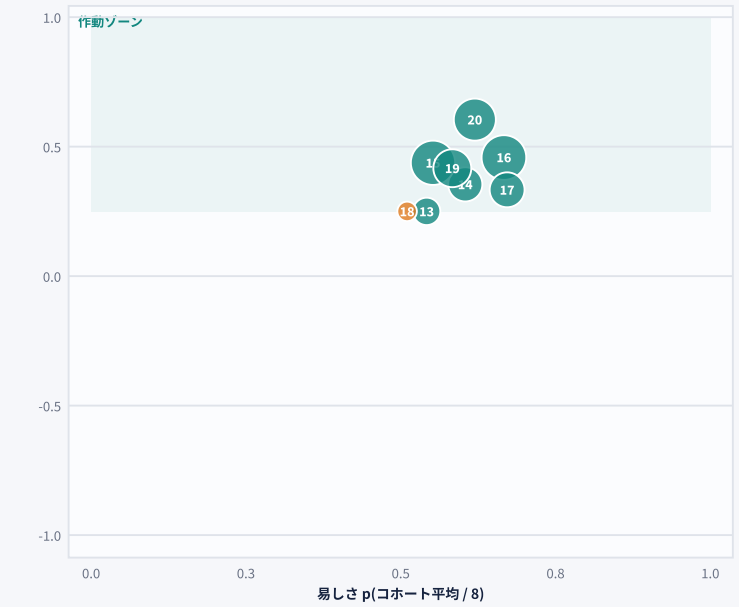
状況	p	D	項目-残差 r [95%]	エントロピー B / W	判定
01 CB-01-B	0.57	0.54	0.70 [0.41, 0.86]	0.96 / 0.95	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
02 CB-01-C	0.53	0.44	0.44 [0.04, 0.72]	0.95 / 0.80	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
03 CB-02-A	0.61	0.52	0.71 [0.43, 0.87]	0.91 / 0.69	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
04 CB-02-C	0.65	0.38	0.42 [0.02, 0.70]	0.92 / 0.90	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
05 CB-03-A	0.57	0.42	0.35 [-0.06, 0.66]	0.96 / 0.86	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
06 CB-03-C	0.54	0.42	0.45 [0.05, 0.72]	0.90 / 0.90	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
07 CB-04-B	0.56	0.52	0.70 [0.41, 0.86]	0.99 / 0.94	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
08 CB-05-A	0.55	0.33	0.38 [-0.03, 0.68]	0.83 / 0.99	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
09 CB-05-D	0.51	0.31	0.42 [0.02, 0.70]	0.96 / 0.96	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
10 CB-06-A	0.53	0.33	0.46 [0.07, 0.73]	0.98 / 0.95	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
11 CB-06-D	0.55	0.56	0.61 [0.27, 0.81]	0.94 / 0.94	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
12 CB-07-A	0.63	0.25	0.37 [-0.04, 0.67]	0.94 / 0.92	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す

判定はルールベースです(D < 0.25 → 弱い、エントロピー ≥ 0.85 → 分散、p < 0.76 → 難しい)。

項目識別力の詳細

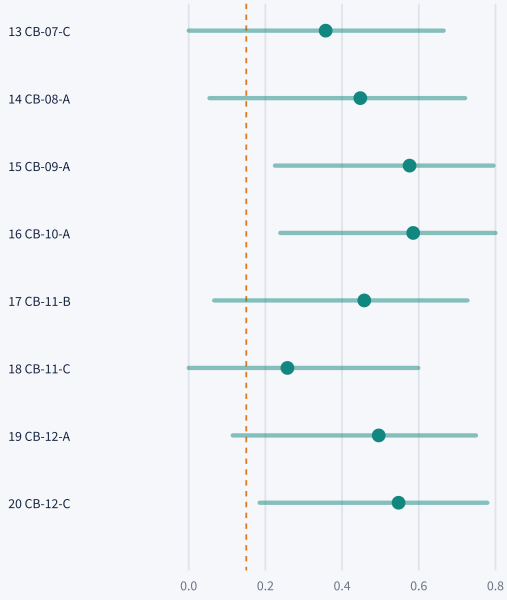
状況 13–20・8項目中8項目が上位・下位グループを明確に分離しています。

易しさ × 識別力・円の大きさ = 項目-残差相関



オレンジ = D < 0.25。縦軸 = (上位27%の平均 − 下位27%の平均) / 8。

項目-残差相関・95% 区間



破線 = 0.15 見直しライン。

項目のストーリー・各項目が機能する理由、しない理由

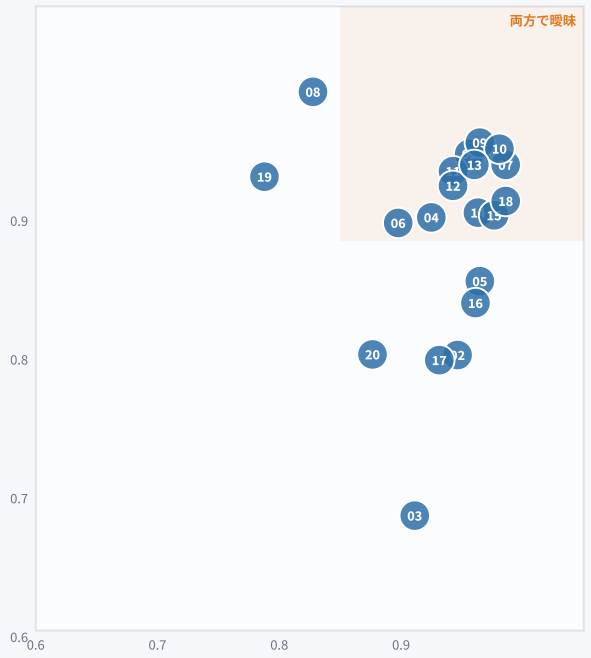
状況	p	D	項目-残差 r [95%]	エントロピー B / W	判定
13 CB-07-C	0.54	0.25	0.36 [-0.05, 0.66]	0.96 / 0.94	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
14 CB-08-A	0.60	0.35	0.45 [0.05, 0.72]	0.96 / 0.91	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
15 CB-09-A	0.55	0.44	0.58 [0.23, 0.79]	0.98 / 0.90	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
16 CB-10-A	0.67	0.46	0.59 [0.24, 0.80]	0.96 / 0.84	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
17 CB-11-B	0.67	0.33	0.46 [0.07, 0.73]	0.93 / 0.80	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
18 CB-11-C	0.51	0.25	0.26 [-0.16, 0.60]	0.99 / 0.91	弱い・上位と下位のギャップが小さい
19 CB-12-A	0.58	0.42	0.50 [0.12, 0.75]	0.79 / 0.93	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す
20 CB-12-C	0.62	0.60	0.55 [0.18, 0.78]	0.88 / 0.80	機能しているが選択が分散 → 正解キーの文言を見直す

判定はルールベースです(D < 0.25 → 弱い、エントロピー ≥ 0.85 → 分散、p < 0.76 → 難しい)。

曖昧性マップ ・ 選択エントロピー

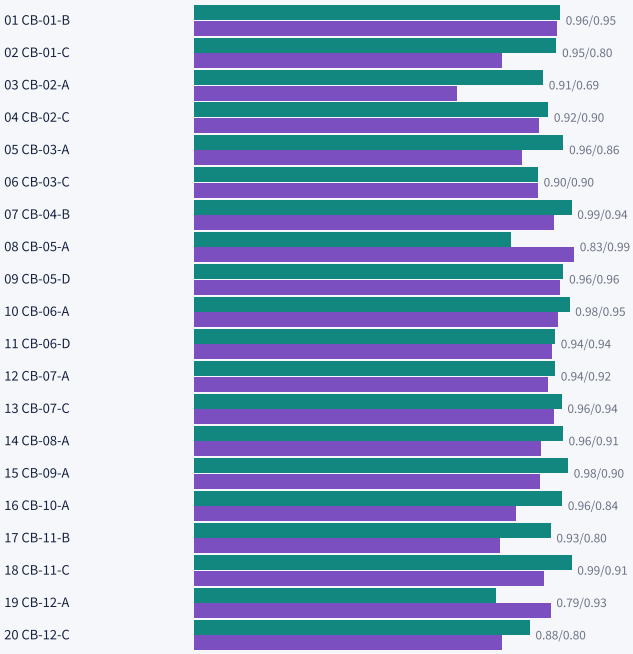
20状況で選択が大きく分散しています。項目見直しでは、これが人々の判断なのか項目の曖昧さなのかを判別する必要があります。

ベスト × ワースト エントロピー



エントロピー = 5つの選択肢に選択がどれだけ均等に分散するか(0 = 全員同一、1 = 完全に均等)。

状況別エントロピー・ベスト / ワースト



キー見直し候補・エントロピー 0.85以上

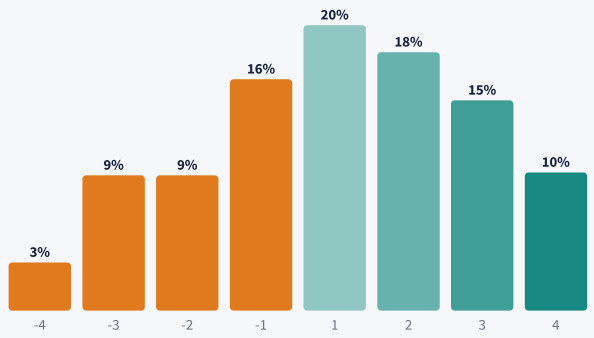
01 **CB-01-B** · ベスト 0.96 · ワースト 0.95 · 最多ベスト キー 5(29%) · 最多ワースト キー 1(33%)
02 **CB-01-C** · ベスト 0.95 · ワースト 0.80 · 最多ベスト キー 5(29%) · 最多ワースト キー 5(33%)
03 **CB-02-A** · ベスト 0.91 · ワースト 0.69 · 最多ベスト キー 1(33%) · 最多ワースト キー 2(54%)
04 **CB-02-C** · ベスト 0.92 · ワースト 0.90 · 最多ベスト キー 5(38%) · 最多ワースト キー 1(33%)
05 **CB-03-A** · ベスト 0.96 · ワースト 0.86 · 最多ベスト キー 5(29%) · 最多ワースト キー 1(42%)
06 **CB-03-C** · ベスト 0.90 · ワースト 0.90 · 最多ベスト キー 4(33%) · 最多ワースト キー 2(33%)
07 **CB-04-B** · ベスト 0.99 · ワースト 0.94 · 最多ベスト キー 5(25%) · 最多ワースト キー 3(29%)
08 **CB-05-A** · ベスト 0.83 · ワースト 0.99 · 最多ベスト キー 2(33%) · 最多ワースト キー 1(25%)
09 **CB-05-D** · ベスト 0.96 · ワースト 0.96 · 最多ベスト キー 1(29%) · 最多ワースト キー 1(29%)
10 **CB-06-A** · ベスト 0.98 · ワースト 0.95 · 最多ベスト キー 2(25%) · 最多ワースト キー 2(33%)
11 **CB-06-D** · ベスト 0.94 · ワースト 0.94 · 最多ベスト キー 1(33%) · 最多ワースト キー 1(33%)
12 **CB-07-A** · ベスト 0.94 · ワースト 0.92 · 最多ベスト キー 4(33%) · 最多ワースト キー 1(38%)
13 **CB-07-C** · ベスト 0.96 · ワースト 0.94 · 最多ベスト キー 5(25%) · 最多ワースト キー 2(29%)
14 **CB-08-A** · ベスト 0.96 · ワースト 0.91 · 最多ベスト キー 5(33%) · 最多ワースト キー 2(42%)
15 **CB-09-A** · ベスト 0.98 · ワースト 0.90 · 最多ベスト キー 1(29%) · 最多ワースト キー 2(38%)
16 **CB-10-A** · ベスト 0.96 · ワースト 0.84 · 最多ベスト キー 5(29%) · 最多ワースト キー 1(42%)
17 **CB-11-B** · ベスト 0.93 · ワースト 0.80 · 最多ベスト キー 5(38%) · 最多ワースト キー 1(33%)
18 **CB-11-C** · ベスト 0.99 · ワースト 0.91 · 最多ベスト キー 1(25%) · 最多ワースト キー 2(33%)
19 **CB-12-A** · ベスト 0.79 · ワースト 0.93 · 最多ベスト キー 3(38%) · 最多ワースト キー 1(38%)
20 **CB-12-C** · ベスト 0.88 · ワースト 0.80 · 最多ベスト キー 5(42%) · 最多ワースト キー 1(38%)

エントロピーが高いのは、項目が曖昧か、複数の行動がどれも妥当に見えることを意味し得ます。見直し候補です。このデータからキーは変更されません。

選択の質 ・ ギャップと逆転

応答の24%が +3 以上のギャップ。逆転は CB-05-D(50%) で最多。

判断ギャップ分布・key(ベスト) − key(ワースト)

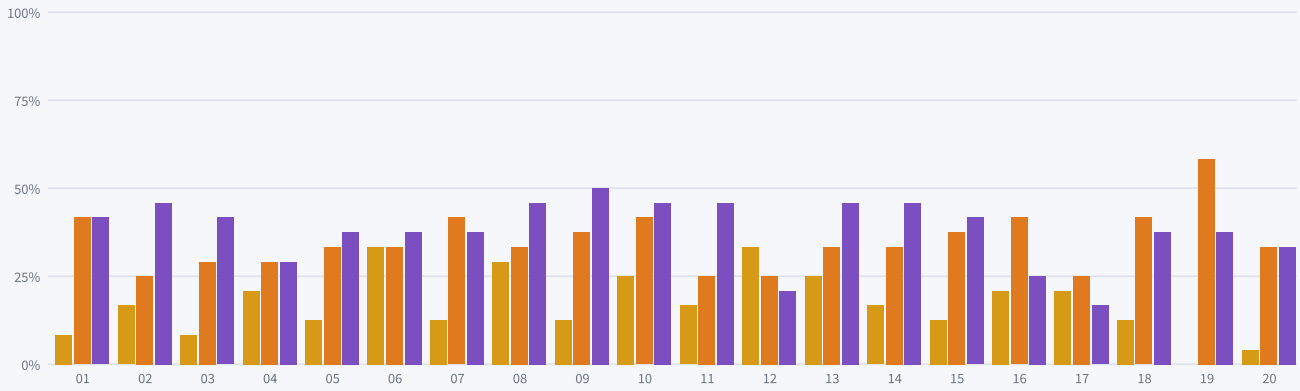


24×20 = 480 応答。オレンジ = 逆転(負)。

ギャップ集計

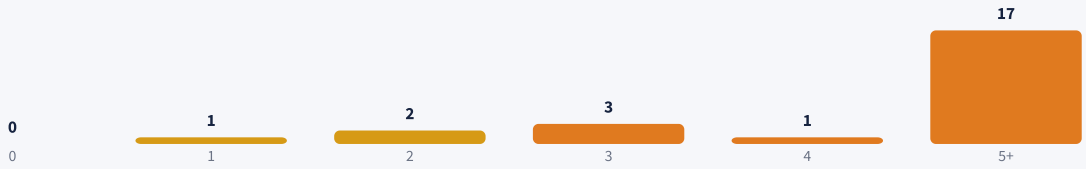
- +4(完全な順序): 10%
- +3 以上: 24%
- 逆転: 38%・1人あたり 7.6件
- 逆転なしの人: 0名
- 逆転3件以上: 21名 → 面接で確認

ニアミス・ファーミス・状況別逆転率



ニアミスは軽いシグナル、ファーミスと逆転が研修・面接の優先順位を決めます。(near = キー 4・far = キー 2-3・逆転 = gap < 0)

1人あたりの逆転数



算出根拠・このコホート24名の480応答から計算。逆転合計 183件(38.1%)・ギャップ +4(完全な順序)10%・+3 以上 24%・逆転なしの人 0名・逆転3件以上 21名。逆転 = gap < 0、gap = key(ベスト) − key(ワースト)。

価値観の緊張マップ

「誠実性」が最も多くの25%以上の拒否を集めています: 24名中6名。

判断の緊張 対 会社の優先価値観・人数分布(社内価値観フレームワーク案、G4 デフォルト)

	拒否 0%	拒否 1–24%	拒否 25–49%	拒否 50%+	中央値 支持
誠実性	3	15	6	0	65%
顧客	6	15	3	0	58%
チーム	5	16	3	0	67%
成果・スピード	19	0	3	2	100%
プロセス	3	18	3	0	60%
自律性	19	0	0	5	100%

セル = この価値観に紐づく妥当な(有害でない)選択肢をワーストに選んだ割合別の人数・有害な選択肢は除外・合計適合スコアなし・カルチャープロファイルが確定するまで ◆ マークなし

誠実性
6
25%以上を拒否する人数

成果・スピード
5
25%以上を拒否する人数

自律性
5
25%以上を拒否する人数

顧客
3
25%以上を拒否する人数

チーム
3
25%以上を拒否する人数

プロセス
3
25%以上を拒否する人数

読み方と限界

- 最も緊張の大きい優先価値観は「誠実性」(6名)。これは採用基準ではなく、オンボーディングで会社がなぜそれを重視するのかを説明するポイントです。
- 価値観の優先順位はサンプル会社のフレームワーク案(G4 デフォルト)です。
- これらは個人の価値観ではなく、「何が有効か」の判断に現れる優先順位です。

オンボーディング対話ガイド・優先価値観別

誠実性
1週目に、なぜここでは誠実性が最優先なのか、それがどう発揮されるのかを示す実際の意思決定を1件共有します。

顧客
1週目に、なぜここでは顧客が最優先なのか、それがどう発揮されるのかを示す実際の意思決定を1件共有します。

チーム
1週目に、なぜここではチームが最優先なのか、それがどう発揮されるのかを示す実際の意思決定を1件共有します。

成果・スピード
1週目に、なぜここでは成果・スピードが最優先なのか、それがどう発揮されるのかを示す実際の意思決定を1件共有します。

プロセス
1週目に、なぜここではプロセスが最優先なのか、それがどう発揮されるのかを示す実際の意思決定を1件共有します。

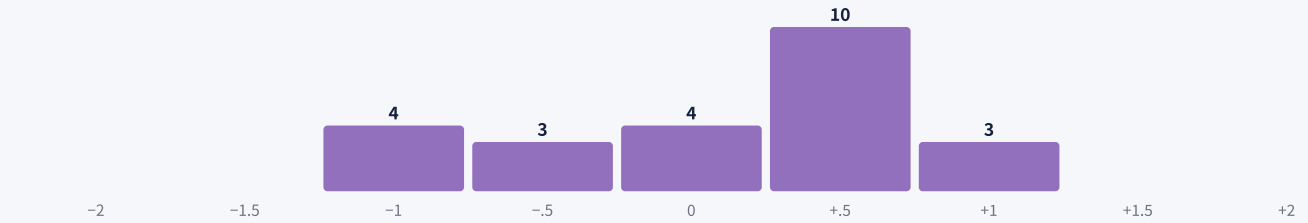
自律性
1週目に、なぜここでは自律性が最優先なのか、それがどう発揮されるのかを示す実際の意思決定を1件共有します。

最も緊張の大きい価値観から始める・個人ごとではなくチームで実施する・採用基準ではありません。

意思決定スタイル分布

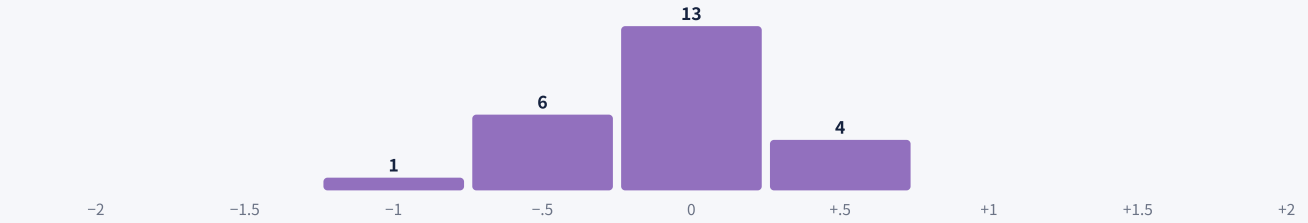
このコホートは「協働型」寄りです。
チーム編成時のバランス確認にご利用ください。

指示型 ↔ 協働型・中央値 +0.60



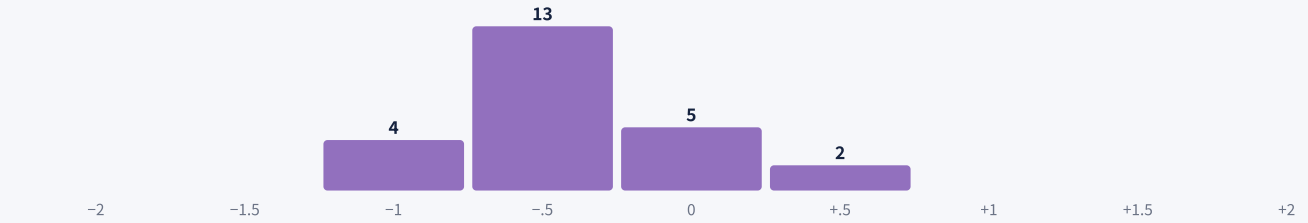
← 指示型・協働型 →

スピード ↔ 合意形成・中央値 +0.15



← スピード・合意形成 →

原則 ↔ 実用主義・中央値 -0.15



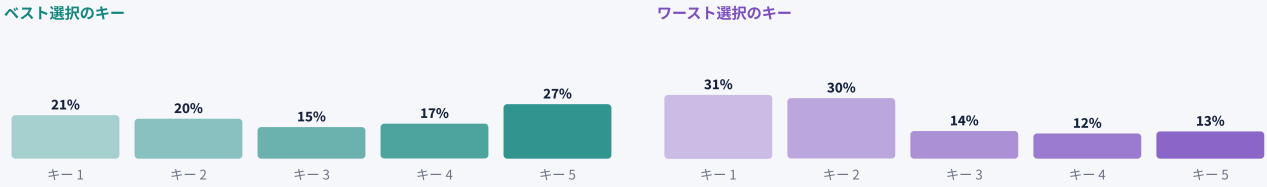
← 原則・実用主義 →

タイプ別スタイル平均

タイプ	指示型↔協働型	スピード↔合意形成	原則↔実用主義	N
バランス型	+1.17	+0.17	−0.63	2
両軸ともエビデンス不足	−0.31	−0.13	+0.29	7

スコア −2〜+2 = ベスト対ワーストに選んだ選択肢に現れるアプローチ・スタイルは優劣ではなくアプローチの違いです・チーム構成の多様性を見るために使用・偽装耐性は未検証。

ベスト・ワースト選択がキーのどこに位置するか・全20状況



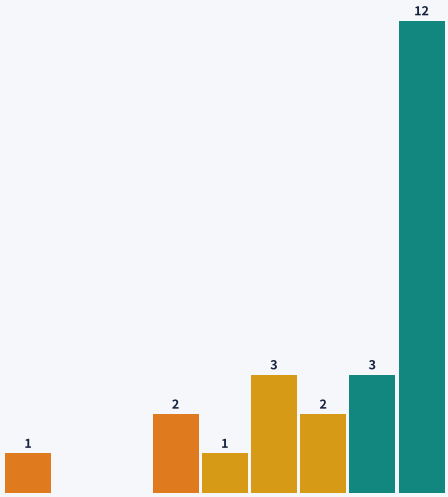
24名 × 20状況 = 480 応答。ベスト選択がキー 5 付近に、ワースト選択がキー 1 付近に集まるほど、コホートが同じ方向に判断していることを示します。

測定の一貫性 ・ タイプ安定性

折半法 0.88、α 0.88。67%の人がリサンプリングで同じタイプを維持。

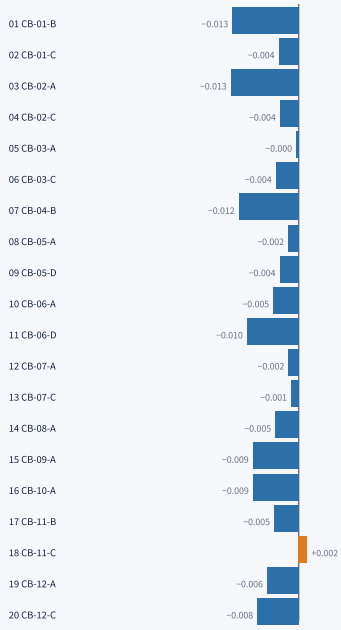
折半法(奇偶、S-B)	Cronbach α	タイプ安定 80%以上	境界域と表示
0.88	0.88	67%	15
90% 0.78–0.94	90% 0.79–0.92	16名	表示タイプの不確実性ルール

1人あたりのタイプ安定性



同じタイプを与える1,000回の項目リサンプルの割合。ティール 80%以上、ゴールド 60–80%、オレンジ 60%未満。

項目を除去した場合の α の変化



点推定タイプ → レポートに表示されるタイプ

点推定タイプ	バランス型	有効行動に強み	リスク識別に強み	エビデンス不足	境界域
バランス型	2				5
有効行動に強み、リスク識別は育成対象					2
リスク識別に強み、有効行動は育成対象					8
両軸ともエビデンス不足				7	

表示タイプは名簿と同じスコアラールールに従います。素の未分化タイプは未分化のまま。他の素のタイプは、いずれかのブートストラップ下限がカットライン以下の場合に境界域と表示されます。

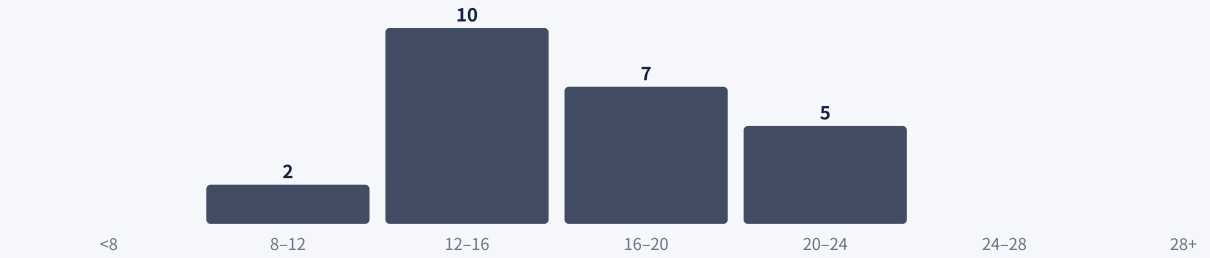
これらの数値が意味すること、意味しないこと

- この24名のコホートからの記述的な値であり、妥当性の結果ではありません。
- 実応答では同じ方法が再実行され、バージョン付きで公開されます。
- 20項目に基づくため、項目数が変われば値も変わります。

応答の整合性 概要

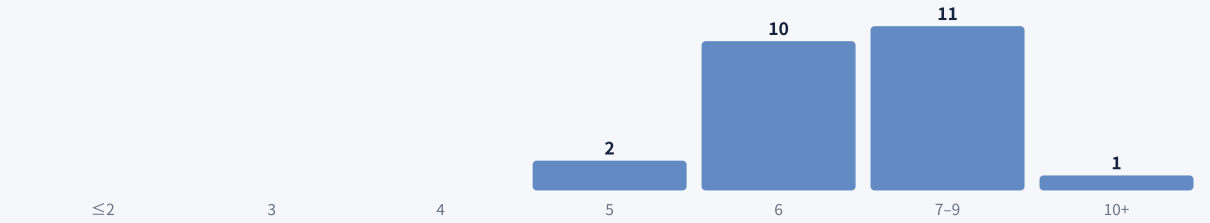
24名中1名が確認シグナルを保持。残りは速度・位置パターンともに正常範囲内です。

1人あたり応答時間中央値(秒)



8秒未満 = 速度シグナル・20シナリオの問題文を読むには短い

同一画面位置でベストが選ばれた最大回数



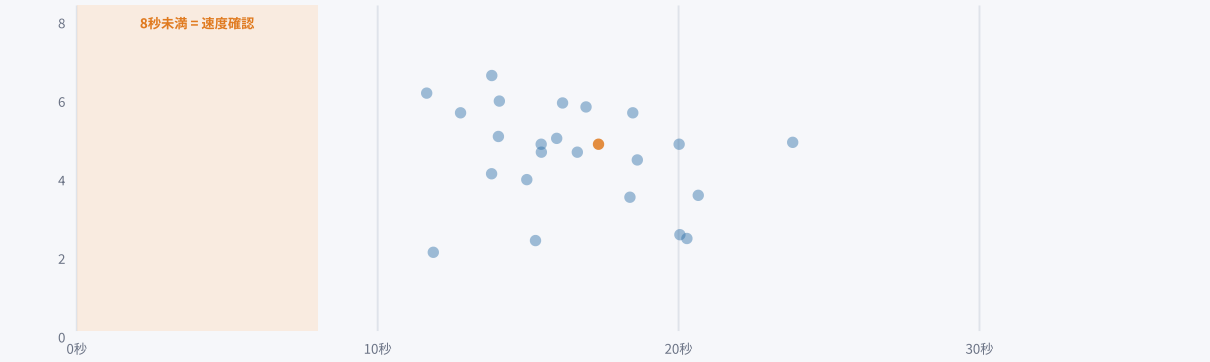
選択肢は1人ごとにランダム化・同一位置が20中15以上 = 位置パターンシグナル(偶然確率 < 0.1%)

シグナルのある応答

ID	シグナル	中央値時間	位置最大	タイプ	推奨対応
Sample 006	位置パターン	17.3秒	19/20	境界域	まず人が確認・必要に応じて再テスト

整合性シグナルは別途表示され、判断スコアと結合されることはありません。シグナルは確認用であり、不正行為の証明ではありません。
フラグ付き応答のタイプとリスク選択は慎重に読む必要があります。

応答時間 × 項目平均スコア・24名

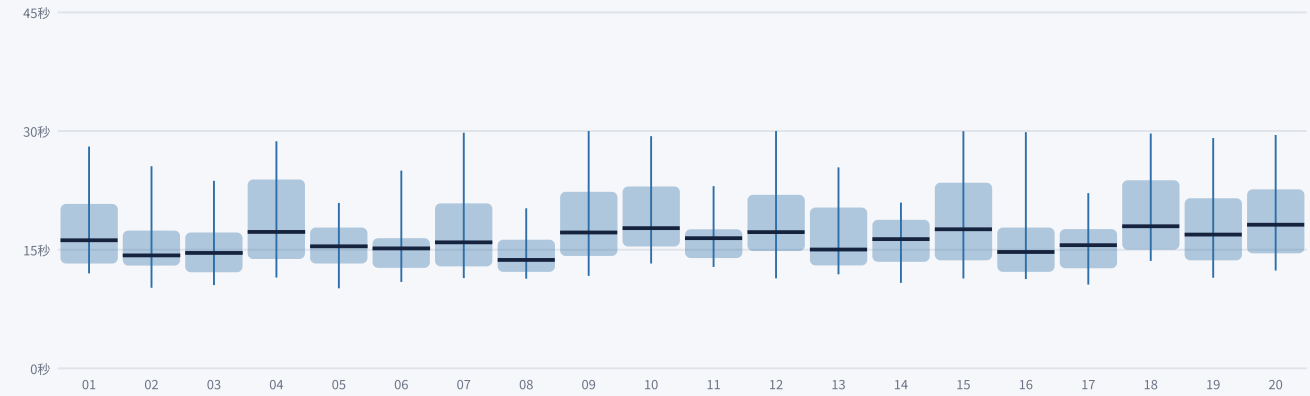


オレンジ = 確認シグナルのある応答。速く低スコアの点が確認の最優先です。シグナルは証明ではありません。

応答時間の詳細

最速と最遅の回答者の判断ギャップはわずか0.96。速度はスクリーニング基準ではありません。

項目別応答時間・24名



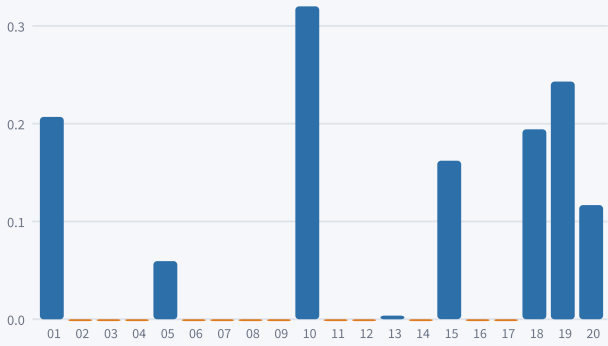
箱 = 中央 50%・線 = 中央値・ひげ = 5–95%。

速度グループ別項目平均スコア



応答時間中央値で3分割。

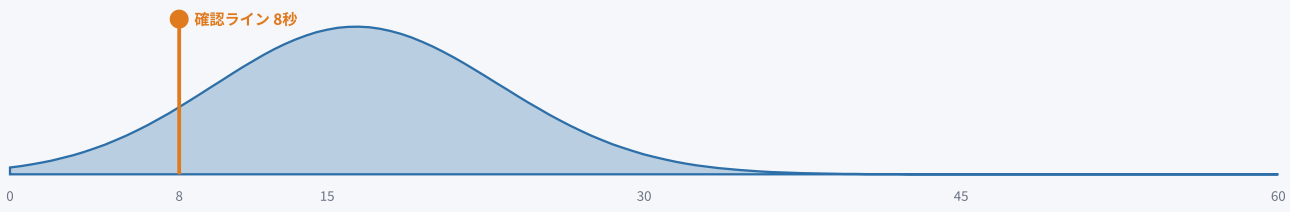
項目別 時間-スコア相関



速度について言えること

- 最速の3分の1の平均 4.99、最遅の3分の1は 4.04。差は小さく -0.96。
- 中央値が8秒未満(確認シグナル): 0名。
- 時間は判断の質をほとんど説明しないため、人のスクリーニングには使われません。シグナルは確認用であり証明ではありません。

1人あたり応答時間中央値



オレンジの線 = 8秒の確認しきい値。その左側の人が速度確認シグナルの対象です。

名簿 ・ ID順(順位付けなし)

このセクション全体で、24名全員の2軸スコア、タイプ、面接の焦点を示します。

ID	有効	有害	タイプ	安定	リスク	シグナル	面接の焦点
Sample 001	0.80	0.75	バランス型	99%	2●		⑤ ⑭
Sample 002	0.26	0.28	エビデンス不足	100%	15●		① ③ ⑤ ⑥ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑱ ⑳
Sample 003	0.80	0.63	境界域	55%	2		⑧ ⑬
Sample 004	0.20	0.70	境界域	87%	17●		① ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲
Sample 005	0.61	0.61	エビデンス不足	31%	5●		③ ④ ⑨ ⑮ ⑳
Sample 006	0.53	0.70	境界域	82%	7●	⚑	② ⑤ ⑨ ⑪ ⑬ ⑮ ⑰
Sample 007	0.47	0.79	境界域	96%	8●		② ③ ⑪ ⑬ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱
Sample 008	0.43	0.61	エビデンス不足	52%	10●		① ③ ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑫ ⑮ ⑰ ⑱
Sample 009	0.72	0.74	境界域	85%	5●		② ⑥ ⑧ ⑬ ⑭
Sample 010	0.24	0.38	エビデンス不足	100%	14●		① ② ③ ⑤ ⑥ ⑨ ⑩ ⑪ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑲ ⑳
Sample 011	0.79	0.70	境界域	88%	2●		⑤ ⑩
Sample 012	0.09	0.56	エビデンス不足	76%	20●		① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
Sample 013	0.74	0.76	境界域	94%	5		⑨ ⑩ ⑬ ⑱ ⑲
Sample 014	0.51	0.66	境界域	68%	8●		④ ⑦ ⑧ ⑫ ⑭ ⑮ ⑯ ⑱
Sample 015	0.45	0.82	境界域	99%	10●		① ⑤ ⑥ ⑦ ⑨ ⑪ ⑫ ⑰ ⑲ ⑳
Sample 016	0.66	0.46	境界域	70%	5●		② ⑦ ⑪ ⑬ ⑱
Sample 017	0.80	0.86	バランス型	99%	3●		② ⑨ ⑪
Sample 018	0.24	0.39	エビデンス不足	100%	16●		① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰ ⑲ ⑳
Sample 019	0.79	0.44	境界域	99%	2		④ ⑤
Sample 020	0.25	0.75	境界域	99%	14●		② ③ ④ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑭ ⑮ ⑯ ⑱ ⑲
Sample 021	0.56	0.68	境界域	62%	5●		③ ⑧ ⑩ ⑮ ⑳
Sample 022	0.76	0.66	境界域	75%	3		⑦ ⑨ ⑩
Sample 023	0.39	0.79	境界域	100%	10●		① ② ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑱
Sample 024	0.41	0.47	エビデンス不足	94%	8●		① ② ⑤ ⑥ ⑦ ⑨ ⑱ ⑳

Eff./Harm = 0–1 軸(カット 0.625)・Stab. = 1,000回リサンプルでの同一タイプ割合・Risky = 有害ベスト選択数、● = 重大なリスク選択・⚑ = 整合性確認シグナル・面接の焦点 = リスク選択のあるシナリオ・表示タイプの不確実性ルールに該当する場合、タイプは境界域と表示。

方法 · 層 · 限界

すべてがどう計算されたか、そしてこのレポートがしないこと。

N層ごとの表示内容

N	層	表示されるもの
< 20	ブロック	個人レポートのみ・コホートレポートなし
20–49	小規模	分布、リスク集中度、面接バンク、整合性、名簿・識別力は参考のみ(CI が広い)・項目アクションなし・価値観/スタイル分布は非表示
≥ 50	標準	全ページ・項目健全性アクション・暫定ノーム利用可(キー + キャリブレーション承認後)

このコホートは N=24、小規模層(緑の行)。

定義

2軸スコア	x = mean (key(B)−1)/4、y = mean (5−key(W))/4。キャリブレーション前の記述的値であり、θ ではありません。
区間・境界域	1,000回の項目リサンプルによる90% 区間。カット(0.625)をまたぐ場合、タイプは設定されません。
リスク選択	E1 = 有害な選択肢(重大度 1–3)をベストに・E2 = 模範行動(キー 5)をワーストに。
識別力	補正項目-合計相関、Fisher z 95% CI。
誠実性	中央値時間 < 8秒、同一画面位置でのベスト ≥ 15/20。スコアと結合されることはありません。
バージョン	key_version theta-key-2026-10-05・採点 bw-s1-v1。公開された結果が上書きされることはありません。再採点は新しいバージョンです。

私たちがしないこと

- 順位付け、総合スコア、合否判定
- キャリブレーション前の θ やパーセンタイル
- 整合性シグナルのスコアへの折り込み
- 価値観/スタイルのクライアントへの表示

キャリブレーション後に変わること

- 内部採点エンジンがキャリブレーション済み項目パラメータから判断スコアを計算し、SE と 95% 区間付きで表示
- パーセンタイルは指定・凍結された参照集団の下でのみ
- 境界域の判定が項目パラメータで精緻化
- 本レポートの記述的スコアはそのまま維持

キャリブレーション前・記述的 | key_version theta-key-2026-10-05 | 参照カット 0.625 | 順位付けなし・総合スコアなし | 欠損は欠損のまま保持

S1 スコアテーブル・ベストキー × ワーストキー

ワースト選択のキー

ベストキー	1	2	3	4	5
ベストキー 5	8	7	6	5	B=W ×
ベストキー 4	7	6	5	B=W ×	3
ベストキー 3	6	5	B=W ×	3	2
ベストキー 2	5	B=W ×	3	2	1
ベストキー 1	B=W ×	3	2	1	0

テーブルの読み方

- 項目スコア = (ベストキー − 1) + (5 − ワーストキー)、0–8
- 模範行動をベスト、最も有害をワースト = 8
- 同じ選択肢をベストとワーストの両方にすることはできません(サーバーが拒否)
- このテーブルが本レポートのすべてのスコアの唯一の源泉です。重み付けも隠れた調整もありません。

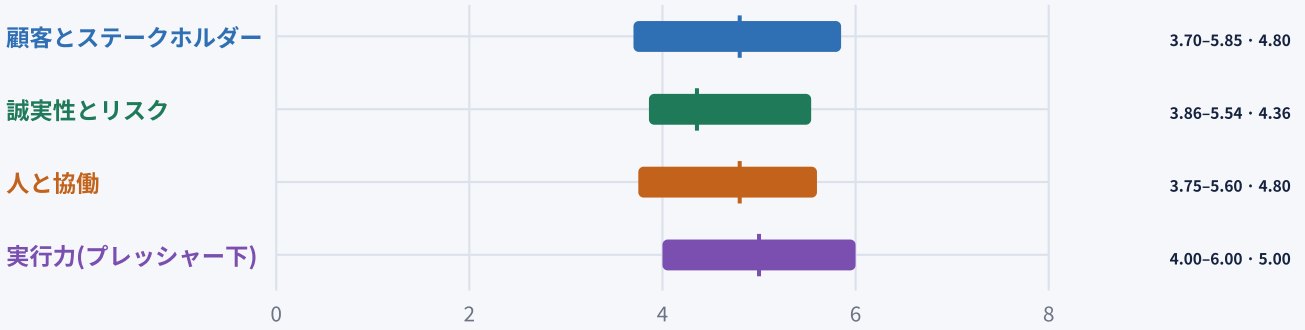
コンピテンシー解釈 · キャリブレーション前 記述的

4つのレンズ、1つの評価

ベスト＋ワーストクレジットは4つのサンプルコンピテンシーを記述します。IRT θ スコアや能力パーセンタイルではありません。

コホート	コンピテンシーレンズ	暫定フロア	状況
24	4	20	20
同一の評価	ベスト＋ワーストクレジット	20未満: レポートブロック	5選択肢、ベスト＋ワースト

4つの分布・ベスト＋ワーストクレジット / 8 記述的



バンド＝中央半分、線＝中央値。全24レコードが20状況を完了。

公開ゲート

暫定コホート

24 / 24 適格　暫定フロア 20

n ≥ 20 が必要

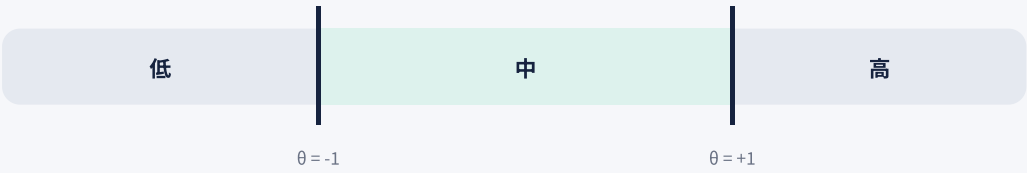
暫定合成レポートは n=20 未満でブロックされます。20–49 の小規模層には別途承認された本番凍結アセットが必要です。

分類(範囲内)

既存のベスト/
ワーストタイプラベルは2つの暫定コホート判断軸を記述します。
記述的なものであり、IRT 能力バンドではありません。
タイプは安定性区間と応答エビデンスと併せて読み、
タイプで人に順位を付けないでください。

IRT バンドしきい値・候補者の値なし

キャリブレーション前・候補者の位置はキャリブレーション承認後に表示



このスケールは測定結果ではなくソースのしきい値を図示しています。仮定の θ=+0.42 はこのサンプルとは別です。

解釈の前の境界

このサンプルには θ、凍結キャリブレーション、承認済み参照バージョンが存在しないため、
実際の能力バンドや能力パーセンタイルはありません。ソースしきい値: 低 θ < -1、中 -1 ≤ θ ≤ 1、高 θ > 1。
ローカルな再適合のない凍結項目キャリブレーションのみがパーセンタイルを可能にします。別の仮定の θ=+0.42 は「中」で 66.3 となりますが、この候補者の結果や実際のノームではありません。

システムによる採用判定、候補者の順位、総合パーセンタイルはありません。人が決めます。

付録 R・相対的位置の参照

四分位数と順位・コホート比較のベースライン。

軸スコア分位数・24名の名簿からの正確な値

指標	P10	P25	P50(中央値)	P75	P90
有効行動の識別	0.24	0.36	0.52	0.74	0.80
リスク識別	0.40	0.54	0.67	0.75	0.79
軸平均	0.32	0.49	0.61	0.71	0.75

カット 0.625 は P50 と P75 の間 - バンド端は p3 の凡例を参照

コンピテンシー四分位数・p10 バンドサマリーから

コンピテンシー	P25	中央値	P75
顧客とステークホルダー	3.7	4.8	5.8
誠実性とリスク	3.9	4.4	5.5
人と協働	3.8	4.8	5.6
実行力(プレッシャー下)	4.0	5.0	6.0

計算方法と対象読者

各軸分位数は境界域メンバーを含む24名の名簿全員から計算されています。P10、P25、P50、P75、P90はソートされた値の線形補間を使用。

コンピテンシー四分位数は同じコホートと割り当てられたソース項目を使用します。

カットは記述的な分類境界であり、母集団のパーセンタイルではありません。

これらの参照値はこのコホートとフォームバージョン固有です。

付録 R・相対的位置の参照

四分位数と順位・コホート比較のベースライン。・続き

状況順位・平均による、同点は同一順位

順位	状況	平均	SD	中央値	Q1–Q3	6–8 バンド
1	**CB-11-B**	**5.4**	1.9	6.0	5.0–7.0	54.2%
2	**CB-10-A**	**5.3**	2.1	6.0	4.5–7.0	54.2%
3	**CB-02-C**	**5.2**	2.0	5.0	3.0–7.0	41.7%
T-4	**CB-07-A**	**5.0**	2.3	5.5	5.0–6.3	50.0%
T-4	**CB-12-C**	**5.0**	2.7	5.5	3.0–7.3	50.0%
6	**CB-02-A**	**4.9**	2.2	6.0	3.0–7.0	54.2%
7	**CB-08-A**	**4.8**	2.4	6.0	3.0–7.0	54.2%
8	**CB-12-A**	**4.7**	2.3	5.0	2.8–6.0	41.7%
9	**CB-03-A**	**4.6**	2.7	5.0	2.8–6.3	45.8%
T-10	**CB-01-B**	**4.5**	2.3	5.0	3.0–6.0	41.7%
T-10	**CB-04-B**	**4.5**	1.9	5.0	3.0–5.3	25.0%
T-12	**CB-05-A**	**4.4**	2.5	5.0	2.8–7.0	41.7%
T-12	**CB-06-D**	**4.4**	2.4	5.0	2.8–7.0	41.7%
T-12	**CB-09-A**	**4.4**	2.3	5.0	3.0–6.3	37.5%
T-15	**CB-03-C**	**4.3**	2.4	5.0	2.0–6.0	41.7%
T-15	**CB-06-A**	**4.3**	2.2	5.0	2.8–6.0	33.3%
T-15	**CB-07-C**	**4.3**	2.4	5.0	2.0–6.0	41.7%
18	**CB-01-C**	**4.2**	2.6	5.0	2.8–6.3	37.5%
19	**CB-11-C**	**4.1**	2.3	5.0	2.5–6.0	29.2%
20	**CB-05-D**	**4.0**	2.2	4.0	2.0–5.3	25.0%

定義・P10–P90 は境界域を含む24名の名簿全員の線形補間分位数・状況順位は平均による競争順位(同点は共有)・コンピテンシー四分位数は p10 バンドサマリーを引用

コホート内比較専用の参照ベースライン - 個人の評定には使用不可